

平成25年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成25年3月4日(月曜日)

議事日程第3号

平成25年3月4日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

+

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	本間	政一君	
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	吉岡	正史君		
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君		
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君		
青海事務所	長	木下	耕造君	市民課	長	竹之内	豊君		
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	加藤	美也子君		
健康増進課	長	岩崎	良之君	交流観光課	長	滝川	一夫君		
商工農林水産課	長	斉藤	孝君	建設課	長	串橋	秀樹君		
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者	会計課	長	結城	一也君	
ガス水道局	長	小林	忠君	消防	長	小林	強君		
教育	長	竹田	正光君	教育次	長	伊奈	晃君		
教育委員会	子ども課	長	吉田	一郎君	教育委員会	教育総務課	長兼務		
教育委員会	文化振興課	長	佐々木	繁雄君	教育委員会	生涯学習課	長		
歴史民俗資料館	長兼務				中央公民館	長兼務			
長者ヶ原考古館	長兼務				市民図書館	長兼務			
					勤労青少年ホーム	館長兼務			
					監査委員	事務局	長	横田	靖彦君

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	主任	主	査	水島	誠仁君
主	査	大西	学君					

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

+

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、2番、保坂 悟議員、17番、五十嵐健一郎議員、兩名を指名いたします。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

3月1日に引き続き、通告順に発言を許します。

倉又 稔議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。〔18番 倉又 稔君登壇〕

18番（倉又 稔君）

清生クラブの倉又でございます。

1、放射性物質を含む汚泥処理と情報発信についてを質問させていただきます。

糸魚川市内の企業が、放射性物質を含む汚泥の処理を行うことについて、排出自治体または事業者、処理を行う市内企業及び糸魚川市の3者による「上水道汚泥処理に関する基本協定」により、それぞれの義務と責任において処理されております。

市民の反応は様々ですが、汚泥の処理に不安を持っている多くの市民は、汚泥処理に真っ向から反対している訳ではありませんが、誤った情報により、不安が広がっているように感じられます。

そこで、市が市民に対しどのように説明し、どのように情報を発信してきたかを、改めて確認いたしたく、次の点を伺います。

- (1) 地域審議会、役員会等への説明会及び自治会等住民説明会で、どのような説明をし、どのような反応がありましたか。
- (2) 不安を訴える市民に対し、どのように対応し、どのような説明をしてきましたか。
- (3) 市は、色々な媒体を使って行政情報を市民に発信していますが、その内容が、市民に対しどの程度到達し、周知されているかを調査したことがありましたか。

以上、質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

倉又議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、処理する上水道汚泥につきましては、クリアランスレベル以下の汚泥に限ることなど、3地域の審議会、区長等への説明を行ったほか、市内19会場で具体的な処理方法と、市の放射線測定体制の説明会を開催いたしました。ご意見の多くは、放射性物質を含むことの不安についてでありました。

2点目につきましては、不安を訴える市民の皆様に対しては、処理する汚泥の濃度が食品の安全基準と同等であることや、安全管理の方法など市の考え方を丁寧に説明してまいりました。

3点目につきましては、市民の皆様にとりだけご理解いただいたかということでありますが、この調査につきましては行っておりませんが、今後も引き続きわかりやすい周知に努め、より深くご理解いただけるよう対応してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私は住民説明会には一度も出席していませんので、大きなことは言えません。今ここで説明会に出席をしているということをお前提として、質問をさせていただきます。

説明会で使った説明資料の上水道及び汚染の処理についてに基づき説明をしてきたとしたら、説明不足の感は否めません。説明資料のほかに住民の皆様にもう少し詳しく、わかりやすく説明をしてきたかどうかということをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ご質問にお答えします。

今ほど市民への情報提供が、少ないのではないかなというご意見だったと思います。確かに私どもは限られた時間内で、住民の皆様を理解していただけるよう、できる限り説明してきたつもりでありまして、資料につきましても私どもがつくったもの、それからセメント会社がつくったもの、こういったものを用いて説明してまいりました。

そういう中で、やはり放射性物質というのは、なかなか一般になじみが少ないことから、不安を訴える方は会場にも大勢いらっしゃいました。そういう中で私どもは資料として、例えば食品中の放射性物質の基準とか、そういったものもあわせてお配りして、できる限り理解していただけるよう努めたつもりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

最初の答弁で、クリアランスレベル以下ということで説明してきたと言いましたし、そういう基準を満たしているということで説明してきたということでございますが、じゃあ放射線と放射能ということについての説明をしてきたかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

資料には放射線の種類というようなものはございませんでした。確かに放射線でいう、特に私どもが通常はかってます線ほかに、人体的に影響のあります線、場合によっては線といったものの細かい説明はしておりませんでしたので、その点については、ちょっと住民の理解が不足していたかもしれません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

放射線、放射能ということについての説明というのは、やはり基本的な説明だと思いますので、そこから始めなくちゃならないんじゃないかなと思っております。

物質を際限なく細かく分けていくと原子になるということは、もう誰でも知っていることですが、その原子をさらに分けると中性子や電子などの粒子に分けることができます。ほとんどの原子は各粒子が安定しておりますので変化は起きませんが、粒子の比率が不安定な物質、例えばウランとかラジウムなどは幾つかの粒子が物質から飛び出していきます。この粒子が飛び出していくときのエネルギーが放射線と言われているものです。放射能とは、放射線を発生する能力のことを言います。説明担当職員は、この程度のやっぱり知識を持って説明に臨まなくちゃならないと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

確かに放射線というのは線や線、線のように、特に線は電磁波であったり、あるいは線は電子であったりしてるわけです。そういった中で、そういう科学的な言葉を使うと、なかなかわかりにくいので、私どもは放射能という形で量についてはベクレルという単位を使って、その物質の中にどれだけの放射能が含まれて、そして、それが発生する放射能の量という形でベクレルという値をしております。

それから、あわせてその地域で放射線を浴びる量というのは、シーベルトという単位だということで説明してまいりまして、いわゆる地震等言えば、いわゆる震度と、それからマグニチュードと、こういったエネルギーと、その場で感じる揺れのぐあいというような形で、ちょっと例えでという形で説明をしてまいりました。できる限り、わかりやすいというような形で説明してきたつもりです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほど部長のお話ですと、シーベルトだとかベクレルという単位を用いて、わかりやすく説明し

てきたということですが、我々はやっぱりベクレルだとかシーベルトと言われてもわかりませんよ。じゃあそのベクレル、シーベルトの2つの単位を、今わかりやすく地震に例をとって説明してきたと言いますが、もう少しわかりやすく説明してきた内容。こういう単位は、こういうことですよということを、ちゃんと説明してきたかどうかということをお聞きしたんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

まず、放射線量については、シーベルトという単位を使うと。そういう中で、私ども日常生活では、もう放射線というのは常に浴びている形であります。そういった中で、私ども今基準といたしましては、特に原子力発電所等の境界等をもって示されております人工的、自然界以外で受ける放射線量というのは、1年間に1ミリシーベルトを上回らないようにという形で説明してきました。そういった中で今現在、この汚泥を受け入れる前に私どもがはかっている放射線量というのは、1ミリシーベルトの1000分の1以下の、さらに0.04から0.07というようなマイクロシーベルト、1時間当たりということになりますけれども、非常に低い値であるという形で説明をし、また、これが処理を開始されても、他の自治体等でセメント処理をしてる場合でもほとんど変化がないという形で説明してきました。

それからベクレルという形で、物質に含まれる放射エネルギーについては食品を例に出しまして、食品の基準というものは一般食品で100、その他乳幼児とか飲料水については50、あるいは10ベクレルというように食物の基準として決められている非常に低い値で、今回持ち込む汚泥については一般食品と同レベル以下という汚泥を持ち込むんですよという形で、わかりやすく説明してきたつもりでございますけれども、確かにシーベルトとかベクレルというのは、通常使われる単位でございますので、なかなかわかりにくいというのは、説明していても感じたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

やはりわかりにくいんですね。普通、放射能のエネルギーだけを問題にするときは、グレイという値を使うそうです。人体への影響について評価するときは、シーベルトという単位を使いますと。ミリシーベルトは先ほど言ったみたいに1000分の1、マイクロシーベルトは100万分の1ということになりますけれども、一方、ベクレルというのは放射性物質が放射線を出す能力をあらわす単位だということを、基本的なことをやっぱり説明しとかんなんです。

原子核が1秒間に1回の割合で崩壊するときの放射線を、1ベクレルと言いますということとなっております。ベクレルをシーベルトに換算するというのは難しいことですが、例えば今、部長がおっしゃったセシウム137の100ベクレルは、1.3マイクロシーベルトに相当するといわれております。

私はなぜこういうことを言うかということ、やはりこういう基本的なことをまず言って、国の基準がどうなってるか言う前に、こういうものはやっぱりある程度、基礎知識として説明してから説明

に入るべきじゃないかと言ってるんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

確かに、この放射性物質のいろいろな性格というもの、あるいはどうしてなるかという原理を説明すればよかったのかもしれませんが、私どもは限られた時間内でご説明をする中で、できる限りこの法律というものを重点的にご説明してまいりました。そういった面では、今ほどご指摘のあるような、そういう物理学的、あるいは科学的と言っていいか、そういうものの説明は確かに不足していたかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

放射性セシウムが100ベクレル以下という低い値であれば、国の基準より安全であるというような説明をしてきたということですけども、じゃあ放射線に被曝するとどうなるかということ、どのように説明したんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今回どれくらい浴びれば、健康に被害が出るかというようなものは中心的な説明とはしてきませんでした。そういった中で、私ども今回汚泥を処理するに当たって、現在の環境が大きく変化しない、いわゆる自然状況というような状況でご説明してきたものでございまして、いわゆるどれくらい浴びたら、医学的のがんになるとかならないとか資料は持ってましたけども、それについては特段、ご質問があったときにのみ答えてまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

資料を持っていったけども、質問するときに答えればいいのかという答弁でございんですけども、やはり一番心配しているのは、そのところじゃないですか、皆さん。だったら、その辺を説明してこなくちゃならないと思うんですよ。

放射線に被曝するとどうなるかということは、細胞のDNAに傷をつけるということなんですよ。ここをやはり説明をしてこなくちゃならないですよ。住民の皆さんが一番心配しているのは、被曝による影響のことでしょう。ここはやっぱりちゃんとした説明をしとかなくちゃならなかった部分じゃないかなと思います。

放射線に被曝するとじゃあどうなるかということではありますが、放射線による影響ということに

なると確定的な影響と、やっぱり確率的な影響というものがあると。これによって語られてるらしいんですよ。そうすると確定的な影響と確率的な影響というのは、皆さんじゃあそういうものを基本的なものとして、そこで話さなくても準備していったかいうことを、ちょっとお聞きしたいですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

医学的ないろいろな見地はあります。そういう中で、やはり今まで発表されているいろいろな研究成果というのを見ますと、1年間に100ミリシーベルト以上に被曝した場合については、明らかに健康に影響があるというような論文もあります。しかしながら、1年間に100ミリシーベルト以下については、なかなかそういう数値は出てきていない、あるいは調査結果が出てきていない。

そういう中で、私ども自然界で浴びる量は、本当に1ミリシーベルト以下でございますので、私ども汚泥を処理にするに当たってもほとんど変わらないという状況から、そういった低い値、いわゆるこれ以下ならもう影響が出ないというしきい値というものが、学会によってもあるないの論争がいろいろ出ております。そういう中で、そういう低い値についての健康被害というものは、私どもなかなかわからない状況であります。

そういった中で100ミリシーベルト以上というのは、健康に影響があるんだという論文の中で、なかなかそういうものを私ども専門家でない中で不安にさせるような発言というのは、できるだけ控えてきたものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

なるべく控えてきたと言いますが、そこがやっぱり皆さんが不安になるところなんです。はっきりやっぱり言うことは言ってこなくちゃだめですよ。

今ほど言った確率と確定のことですけれども、ある線量以上の被曝があると必ず起きる障害のことを確定的な障害と言うそうです。それはやっぱり放射線によるやけどだとか、白血球の減少などとかというようなものが、確定的な障害といわれているものです。確率的な影響というのは、被曝した量と経過時間に応じて遺伝子に影響を受けたり、がんが発生するなど健康状態に影響を与えることを確率的な影響と言うそうです。

以前は、ほんのわずかな被曝であっても、遺伝子に影響があると言われてきましたが、現在では4シーベルト以上の被曝がないと遺伝的な影響はないと言われてます。4シーベルトといいますが大きな値なんで、これに被曝すると2カ月以内に半数の人が死亡する値だと、それほど大きな値。これぐらいの大量の被曝をしない限り遺伝子に影響はないと言われておりますので、現在では放射線の確率的影響といいますが、がんの発生する危険性のことを言ってるんです。説明会で、乳幼児や子どもさんのがんの発生の危険性についての質問というのはなかったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

がんに対する質問ということでございますけれども、私ども説明会の中ではそういう心配がある。要するに、放射性物質が入ってくることによって人体に影響があるのかなのかと、そういうような不安のご質問はたくさんありました。そういった中で、がんというふうに直接、私どもが答えたり質問したことはございませんけれども、そういう心配も含めて質問があったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

先ほど部長が、調査結果が出てきてないからという答弁をされたと思うんです。この放射能に関するものは、比較的まだ新しいものなので、この研究が、だからやはり経験則だとか、いろんなデータの積み重ねで、こうなるという仮説をやっぱり立てていかなくちゃならないということで、考えられることは考えられますけども、やはり経験則で物事を今、例えば学会やなんかでも、私は知りませんが、そういう形でやってきとると思うんですよ。

そういう中で、例えば広島、長崎での原爆による追跡調査だとか、チェルノブイリ原発事故の調査で、それでやっと100ミリシーベルト以下の被曝では、がんの発生は1例もありませんでしたということで、調査結果が出てるんですよ。

子どもは細胞の新陳代謝が高いために放射線被曝の影響を受けやすく、また、年寄りよりもさらに長い年月を生きていかなくちゃならないために、がんが発生するかもしれないという中で、そういう仮説の中で被曝量は少ないほうが安心であるということになったと言われてます。

そういうことで、じゃあ子どものがんの発生よりもお母さん方の不安は、やっぱり胎児や何かの不安だと思うんですよ。胎児の不安や何かも結構訴える人がいますので、それに対して100%安心とは言えないけども、ある程度、お母さん方に安心感を与えるような説明というの、聞かれたときにしなくちゃならないと思うんです。そのときに聞かれなかったら、説明してこなかったと言えそれまでですけども、もし聞かれたとしたらどのような説明をしますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先ほどもちょっと触れたんですけども、高線量の被曝、これについてはある程度、きちっと出ております。しかしながら、先ほど申し上げましたように1年間に100ミリシーベルトという、非常に小さい数値での健康への被害というのは、なかなかわからない状況です。そういった中で私ども、今汚泥を処理する場合にじゃあどうなるかということで、今自然界に放射線量、いわゆる処理する前には1年間に1ミリシーベルトに満たないような低い数値です。それに汚泥を処理したと

しても、ほとんど上乘せがないというような状況でありますことから、そういった低い数値については学会においても、なかなかわからないというのが状況です。そういった中で、私どもは確定的なお話をするというのは、なかなか難しいことですので、そういったものを積極的に話してこなかったというのが実態です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今の答弁じゃなくて、私が聞いたのは、そういう質問があったときは、どういう答弁をしますかという問いかけだったんです。胎児が放射線を浴びて、奇形児が生まれるというのは確定的な影響です。現在、国際放射線防護委員会が採用している値は100ミリシーベルト、250ミリシーベルト以上の影響がないと奇形は発生しないと言われてます。このような具体的な説明をもししていたとしたら、不安はなくなるにしろ、お母さん方の不安を少しでも和らげることができるんじゃないかなと私は感じますよ。

次に、放射能の半減期ということをお聞きしますが、半減期というのは、どういうことなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

説明会では、やはりセシウム137の半減期は、30年と長いというふうに報道されておりました。それにつきまして、やはり不安を持っている方々が大勢おりました。いわゆる物質が、その放射能を発する力が半分になるというようなやわらかい言葉で、半減期というものを説明してまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

そうですね。放射性の物質が放射線を出しながら、より安定した物質へと変化していくわけですよ。その放射線量が半分になることを、今、部長がおっしゃったように半減期と言うんですけども、じゃあ生物的半減期という言葉がありますけども、これについて承知しておいたらお答え願いたいです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

生物的半減期というものについては、私も十分承知しておりません。そのために説明会では、そういう説明はしてまいりませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

人体に入って放射性物質が排せつなどされて、放射線量が半分になる時期を生物学的半減期と言います。例えばセシウム137では約70日、ヨウ素131では12日間ですけど、ヨウ素は甲状腺に集まるという習性があるとお聞きしておりますので、甲状腺に集まると120日ということになります。

12月定例会でも何人かの議員が、放射性物質を含むこの汚泥処理についての質問がありましたけれども、その中でヨウ素の備蓄についてのやりとりがありました。ヨウ素が必要になる場合がなぜあるのか、お聞かせ願いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

今の議員の中でちょっと言葉がありましたように、放射性ヨウ素を対内に取り入れると甲状腺に蓄積しまして、そこから体内被曝という形で、がんになるということで、そういう中で、特に40歳までについては発がんのおそれが高いので、いざというときには放射性ヨウ素を吸収しないように、安定ヨウ素剤を服用する必要があるというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほど岩崎課長が申しましたとおり、そのとおりなんですけども、やっぱり説明不足の感は否めませんね、今ぐらいの説明で終わるとしたら。

ですからヨウ素は甲状腺に集まる性質を持ってると。体内に入ったヨウ素131の20%が甲状腺に集まると言われてます。甲状腺に500ミリシーベルト以上集まる可能性があるのと、ヨウ素剤の服用が必要になってくると。ただ、この糸魚川地方では子どもころから小魚や海草を多く食べている人が多いため、甲状腺にヨウ素がもう集まっている人が多いわけですよ。ヨウ素剤不要の人が結構いるんじゃないかということもお聞きしております。わかりやすく言うと、甲状腺という容器の中にヨウ素がいっぱい詰まっていれば、もう入る余地はないんです。入ってきても甲状腺には入らずに体内から排せつされるということで、放射線ヨウ素が入ってきても、もう甲状腺には集まりませんよ。こういうわかりやすい説明をすれば、やっぱりヨウ素剤の備蓄が必要なのかどうかという質問も、少なくなってくるんじゃないかと思うんですよ。そういうことを、やっぱりちゃんと説明してこないといけない。先ほど言ったみたいに40歳以上の人は、もうがんになる危険性の年数がくる前に、もしかしたらもう亡くなっているから必要ないんですよということでしょう。そういうことですよ。やっぱりこういう丁寧な説明が必要なんじゃないですか。

今まで私はわかったようなことを言うんですけども、これはどこで勉強してきたかと言うと、行政

書士会の糸魚川支部で、放射線についての研修会を開いたんですよ。このときの全て受け売りなんです。これぐらいのことでしただけでも、ある程度のことわかってくるんで、やはりこの研修のときに思ったことですけども、市の担当職員も国の基準を示して説明することも大切なことですけども、事前にある程度の知識を得て説明会に臨んで、住民の皆さんに対して具体的にわかりやすくやっぱり説明して理解度を深めてもらったほうがよかったんじゃないかなと。

私、一番最初に言うたみたいに、そこに出席してないんでその雰囲気もわからないし、偉そうなことも言えないんですけども、そのように感じましたけども。再び聞きますけども、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほどのご質問で、やはり放射性物質とかそういうものの基本的な知識というものを、今になれば説明の中に、さらに加えればよかったかなとっております。ただ、医学的ないろいろな調査については、いわゆる低いレベルの結果がなかなかないものですから、私どもとして積極的な説明ができないというようなところもございました。そういったことで、まず、放射性物質の性質、性格、そういったものを、きちっと説明すればよかったかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

じゃあ次に、地元のセメント工場で、汚泥を原料の一部としてセメントを製造しとると。数量の多いセメントの中に放射性の汚泥が入ってきても、それが希釈されてるために安全といえますけども、じゃあ例えば家を新築する際に、具体的に、その基礎に使ったコンクリートから基準以上の放射能が検出されるということがもしあったとしたら、これはどのように対処するんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

私どもが今、市内で処理している汚泥については、先ほどからも言いましたように、100ベクレル以下というような非常に小さい数値でございます。それをセメント原料として、おおよそ100分の程度と言われてるわけでございますけれども、そういったようにセメント自身も原料となる割合は非常に、またその汚泥の量の割合というのは少ないわけです。そういったものをコンクリートにするということになりますと、当然、砂、砂利等が加えられます。そういったものに、もし放射性物質が自然界のもの程度ということであれば、そういう高い基準のコンクリートというのは、ないものと私どもは思っております。

ただ、そういうものが何らかの事故等で含まれるということになれば、私どもとして、そのセメントがどうのこうのというのはできるものではなく、やはり国がそういうものを例えば撤去せえとか、あるいは、そういうようなことになるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私も安全だとは思っております。しかし、もし万が一、何かの事故でそういうものがあつたとしたら、やはり国もそうですけども、企業責任なんです。セメントから放射能が検出されたとなると、やっぱり企業は全責任をとる。責任をとらないで、そのまま例えば製造を続けたり、販売したりするということになれば、もう消費者は黙ってません。反社会的な行為によって、今まで大企業が廃業に追いやられた例はいっぱいありますよね。やっぱりそれは消費者を無視してきたから、大企業といえども今の世の中は、これだけマスメディアが発達してれば、もう対応し切れなくなるんです。だから、それは企業責任なんですよ。その辺をやっぱり明確に説明しとかないと、そして、そういうことを企業と事前に協議して、説明会に臨んだかどうかということですよ。その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

事前に企業とも相談をしました。セメント製品として、やはり100ベクレル以下のものでないと、製品としては流通してはいけないという国の基準等もあることから、その辺のところを守ることによって、その後のセメントに対してのそういう高い数値は出ないということで確認をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

汚泥処理について私に苦言や質問をしてくる市民の人たちは、東日本大震災の瓦れきを受け入れてるんだと思ってる人は結構いるんですよ、今でも。その人たちに新潟県内の水道事業体や工業用水の汚泥であることを私のほうで説明すると、一様に知らなかったという答えが返ってきます。市民に対して、やっぱりどのように周知してきたかということ、やっぱり問題だと思うんですね。

一番最初に市長が答弁したように、周知に努めるということですけども、どのような方法で周知をしてきたか。例えば住民説明会をやりました。住民説明会をしても、16会場で409人、地域審議会や役員会等の説明会で28会場で130人、全住民説明会3会場で50人、延べ589人、これ糸魚川市の人口の1.25%にしか当たらないんですよ。じゃあこの人たちでさえ、どれだけ理解して帰ったかわからないものを、市民の人たちにどうやって周知させるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

市民の皆様への周知方法といたしましては、市内でセメント処理をしたい旨の報告を8月10日の日に広報等で行っております。それからまた随時、ホームページ等にはその辺のところを載せております。また、1月10日には下水道の処理に対する協定の締結をしましたということと、それから、これまでの経緯についても広報等で掲載をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

確かに広報等でも知らせております。しかし、この問題に限らず、広報でいろいろな行政情報を発してますけども、広報をどれだけの人が読んでいるかという追跡調査というのを、今までやったことありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

広報をどれだけ読んでいただいたかというようなことを、正規な形で調査したことはございません。ただ、総合計画等を立てる際にアンケート的に、広報についての重要度であるとか、満足度であるとかという事柄についてお聞きをして、その回答を得たということがございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

その回答結果のパーセンテージというのわかりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

後期基本計画をつくるに当たりまして平成22年の8月から9月にかけて、これは3,000人の方に手紙を出してお答えをいただいたわけですけども、満足度のほうでいいですよと、回答していただいた方の57.2%の方が、おおむね満足というような形でお答えいただいております。それに対して不満足であるという方は24.6%ということで、お答えのなかった方等も入れますと、それ相応の満足はいただいているかなと思いますし、重要であるというふうなお答えをいただいた方は8割ということでありましたので、広報等については、市民の皆様は重要であるというふうな捉え方をいただいているというふうに判断をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私が言うてるのは、重要であるかどうかということではないんです。重要であることはわかっているんです。それが皆さんに届いたのを何%の人が見て、その行政情報を理解してるかということを知りたいんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

そのことにつきましては、最初にお答えしましたように、まだしっかりとした調査を行っておりませんので、今後そういったことについても調査をするべく、今どんな内容ですればいいかというようなことの検討に入っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

行政情報を正確に、より多くの市民に周知させるということは非常に難しいものです。この質問をしてる私自身も、じゃあどんな方法がよいのかと聞かれたら、私もやっぱり答えに詰まる部分が多くあると思います。ただ、いくら行政が努力しても、今のところ市民に対して正確な情報が伝わってないということですよ。

この汚泥処理方法の伝達にしても、誤った情報が例えば口コミなどでも伝えられるということは、その情報のほうが行政から発せられた情報よりも、やっぱり伝達能力はすぐれているということじゃないですか。いくら一生懸命にやっても、なかなか行政の情報が正確に伝わらなくて、違った情報が行くということは、そちらの情報伝達能力のほうがすぐれている、私はそう思いますよ。その辺どう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

倉又議員おっしゃるとおり正確で、やっぱり今必要なものを市民が求めているんだろうと思ってます。それをわかりやすくお知らせするというのは行政の努めだと思ってます。

ただ、やっぱり今言われたように捉え方は悪いですが、うわさ話のほうが先行していくような事例というのは多くあるわけですので、そういうことがないように今後ともこの件についても、しっかり説明する必要があるというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

市民に対する情報提供は、あんまり難しい言葉を使わずに、例えば説明会に参加しなかった人でも、広報を読まなかった人でも、口コミによってでも正確な情報が伝わるような研究だとか、努力

が必要なんじゃないかなということをお願いして、私の一般質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

倉又議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩として、再開を午前11時といたします。

午前10時50分 休憩

午前11時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、鈴木勢子議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。〔25番 鈴木勢子君登壇〕

25番（鈴木勢子君）

25番、鈴木です。

今回で一般質問は通算80回目となります。発言通告書に基づき5項目質問いたします。

1、新市の対等合併からこれまでの8年間、市民の生命と暮らしに関する項目を取り上げてきましたが、再度次の項目について伺います。

- (1) 「地域防災計画」の進捗状況と海拔の低い地域や施設などの津波対策について。
- (2) 放射性セシウムを含む汚泥の受け入れ協定書とセメント会社への搬入状況について。
- (3) 人にやさしい福祉施策の充実のため、福祉事務所の組織見直しについて。
- (4) 障がい者や高齢者らに特に分かりにくいホームページの改善について。
- (5) 「0歳から18歳までの一貫教育」で、就学前までの子育て支援についてお尋ねいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

1点目の地域防災計画につきましては、改正された国の防災基本計画と新潟県の地域防災計画との整合をとり、津波災害対策編の新規独立など25年度に改正を行う予定であります。

海抜の低い地域への対策といたしましては、海抜表示や津波避難ビル指定を進めておりますが、津波避難に適した建物がない地域もありますので、本年6月に開催する津波避難訓練を踏まえ、より安全な避難経路や一時的な避難場所を地域と一緒に検討してまいります。

2点目につきましては、昨年12月20日に、上水道汚泥処理に関する基本協定の調印を行っており、今年1月9日から市内セメント会社で上水道汚泥の処理が開始されております。3月1日現在の上水道汚泥処理量は、2社合計で1,735トンであります。

3点目につきましては、現行の組織で十分な対応ができるものと考えております。

4点目につきましては、平成22年4月のリニューアルにより、機能を充実させております。

5点目につきましては、就学前の子どもは、親、家族との基本的信頼関係、自立性・自主性を育む時期であり、その特性に応じた各種支援を実施いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願ひ申し上げます。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前11時05分 休憩

午前11時05分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

では、再質問いたします。よろしくお願ひいたします。

地域防災計画であります。糸魚川市の場合は平成18年から今23年の4月、それから23年12月28日、ここで追録が終わってますよね。この23年12月から今日までそのままということで、市長のおっしゃる国、県の動きもあるんですが、私、前もこの質問を取り上げましたけども、国、県の動向を見てやることも大事ですが、それまでに万が一、災害が起こったときどうするのかということも問いました。ですから、きょう現在は何も無いわけですけども、25年に新たに計画

が示されるまでに、何も起こらないという保障もないわけですね。

それで、まず私は以前の質問でも取り上げましたけど、津波対策ですよ、海拔の低いところもありますし、当然高いところ、ここでは施設を問いました。中学校4校については、比較的海岸線から離れて高い位置にあります、小学校18校は、糸魚川小学校のように5メートルとか、海岸線に近い小学校もありますよね。それから福祉施設も含めて、国道8号沿いの福祉施設もあります。こういうことをどうするかっていうのは、国、県のが出てきてからではなくて、糸魚川市の防災会議があって防災委員もいますので、ここら辺を今どういうふうにされてきたかっていうのを、もう一度ちょっと教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

ご指摘のとおり、日にちはもう刻々と動いとるわけですので、確かに防災計画につきましては速やかに策定するというのは、ご指摘のとおりだと思っております。

ただ、今、津波の災害の件につきましては、前段の議会でも修正をさせていただきましたように、県が一旦、津波の震災想定をしたんだけど、その内容が間違っていて修正をされたとかというようなこともございまして、新潟県の基本的な考え方も少しずれております。

ただ、それはそれとして、それでいいかといいますと、決してそういうわけではございませんで、市長の答弁の中にもありましたように海拔表示だとか、津波避難ビルの指定だとか、防災訓練を実施して、自分たちがどういう地域なのかということをお体で認識していただくとか、そういう具体的な取り組みは、我々は我々として必要なものは、漸次もう進めているつもりでおります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

学校のことが質問の中にございましたので、学校や園の対応を説明いたしますが、糸魚川小学校や、その周りの園につきましては、市役所または市民会館の3階等が避難場所になっております。また、その他の学校や園におきましても近くの高いビル、または学校の屋上が最も安全であるというような場合には、そこを避難場所として定めながら、避難訓練を通して防災に努めるということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

今、糸魚川小学校の例を出されましたけれども、そうするとほかの小学校、それから福祉施設、避難に関しては表示をすればいいということでもありませんので、やはり海拔の低いところ、どれくらい問題のある施設ありますか。糸魚川小学校以外、あと福祉施設ですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

福祉施設といいますと、8号沿いに支援センターささゆり、あと寺町のところでは好望こまくさ、支援センターこまさく、それと寺町ですね、8号沿いに小規模多機能のところがありますし、グループホームがございます。また、押上のほうにもデイサービスセンター等がございます。

そこのところは地域の方と協力しながら避難訓練を行う中で、どういうふうにして避難していくかというところを考えていただいているところがございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

小・中学校ですが、特に小学校につきましては5つ、海拔が10メートル以下がございます。大和川小学校、糸魚川東小学校、糸魚川小学校、それから田沢小学校、市振小学校、いずれもこういった学校は、10メートル以上のところに避難場所を設定してございます。

また、園につきましても、8園あるかというふうに思います。川崎保育園、木浦保育園、大和川保育園。失礼しました、8園ではありませんでした。もうちょっとありました。糸魚川東保育園、中央保育園、寺島保育所、市振保育園、青海幼稚園、糸魚川幼稚園、天使幼稚園等ではありますが、いずれも園につきましても10メートル以上のところを避難場所として、近くの高いところ、または高いビルにお願いをして、避難することになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

小学校では10メートル以下のところが5校、田沢小学校は入ってましたけども、園については田沢幼稚園が入っていませんでしたけども、どうされました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。すみませんでした。漏れ落としてしまいました。田沢幼稚園も10メートルですが入っております。田沢幼稚園につきましては、田沢小学校の屋上が避難場所になっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

県も以前示された津波の数字が外部に委託していて、ちょっとミスマッチがあったということで、今ちょっと進行形ですよ。やはりこれを待っているのではなくて、具体的な施設の名前も挙がりましたので、そういったところと地域と施設長とも含めて、密にやっぱり進めていかなければいけないと私は思うんですね。

昨日、9時からNHKスペシャルで「震災ビックデータ」というのがあって、非常によかったのは2年目を迎える3月11日の特集ですけども、救急隊や自衛隊が、データがなければ救える命も救えないと、そういうふうに言っていましたね。当然なんです。

それで今施設にいる人たちもそうですけど、例えば在宅で介護して、体が不自由な人もたくさんいますね。そういった人たちもどうって救うかっていうのが、やはり2年前の大震災の教訓に学んで進めてほしいと思いますが、まず、このあたりは、どこまで県が25年度中ということですけど、進められます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

新潟県は当初の計画では、24年度末に県の計画をまとめたいというお話でございました。でありますけれども、想定誤り等がございまして、現在では3カ月から4カ月程度、おくれるというふうなことで伺っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

それから以前質問で、新幹線高架橋のことも触れましたけども、やはり昨年6月24日の避難訓練のときに、そこで工事用の搬入道路を利用して、田海地域ですけども、そこに登ったという人も確認してますし、所長のほうにもそれは電話をしておりますけれども、仙台の東部高速道路が、この大震災を受けて地域住民との要望、それからいろんなあれで、動画でも見れるんですけども、大震災の津波のときに開放する、そういった避難のスペースもあるってということが、かなりこの2年間で、全国でいろいろPRされている。糸魚川市は高速道路も含めて新幹線高架橋、当然、津波が来るくらいですから新幹線もとまりますよね。このあたり、前回質問したときには途中で終わりましたが、その後の打ち合わせでどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

まず、新幹線につきましては、前回も市長からも答弁ありましたとおり、現在でもやはり原則的には立入禁止ということに法律でなっております。

それから高速道路につきましても法律的には、現状では立入禁止ということになっております。ただ、鈴木議員おっしゃいましたように、東北のそのような事例がございます。私のほうでも調べさせていただきましたが、あくまでも高速道路の管理用道路という位置づけの中で、整備した事例があるということで、我々とすれば情報としてつかんでおりますし、当方とすれば海岸と高速道路の間、距離もありますし、それから避難道路をつけるとすれば、やはり土盛りでないと、なかなか避難道路をつけるというのは非常に難しい部分もあったり、そういうようなものもありますので、糸魚川には高速道路に避難をするというのは、なかなかなじまないのかなと思いますが、ただ、そういう事例もありますので、場合によっては住民の避難する上で必要ということであれば、道路公団の高速道路を担当する部局の方と協議をすることは、可能というふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

以前の答弁と変わりませんよね。だからその後、働きかけないということですね。救える命も救えなくなるというところで、やはりもう少し私は真剣に捉えて計画を進めてほしいと思います。

県内でも原子力の防災計画がどんどん進めているところ、パブリックコメントを求めているところもありますので、私たちは原子力災害も含めて、もう50キロ圏内ではないからという、そういう捉え方ではなくて、いつやって来るかわからない災害に備えて、そして市民の命を守るのは皆さん、私どもも含めて仕事だということを再認識して進んでいかなければいけない。当然のことですけど、よろしく願いいたします。

次、2番目のことですが、2日の土曜日に低レベル放射能の危険性という講演会がありまして、そこで新たになったこと、それから再認識したことが幾つかあるわけですが、今、福島第一原発の1号機から3号機、合わせて1,000万ベクレル、1時間に放出されている、1時間ですよ、1,000万ベクレル、24を掛けたら1日ですね。非常にこれはもう現実ですね。

それで今、セメント会社が受け入れている1月9日からの上水道汚泥ですが、まず、講演会では糸魚川市の副市長をはじめ吉岡部長、管理職の方もご参加いただいて、資料をお持ちだと思いますけども、電気化学が私ども市民厚生常任委員会に示した資料をもとに仮定をすると、会社のほうでは1日632万ベクレル投入というふうに、これで計算して排ガスですよ、99.9%出ていかないと。残りが0.1%、煙突ですね。その0.1%を換算すると、1日に6,320ベクレル、0.1%、工場の煙突から出てる。これをどう捉えるかというのは、それぞれの立場で違うと思いますが、まさに外部被曝と内部被曝が混乱しているんです。このところをやはりもう少し市議会議員も含めて、ここにいる方は認識して進まないといんでもない。

だから協定書を12月20日に、定例会が終わって結びました。ここでは総量、どれだけ受け入

れるのか、それからいつまで受け入れるのかというのが書いてないわけです。これを市長、どういうふうに捉えますか。延々と続きますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

私ども汚泥を受け入れる量につきましては、排出元が処理できるというような状況になるまで、今の100ベクレル以下に限って処理を続けるというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私ね、12月定例会のときも言いましたよ。市長に問うてるわけ、どうして部長出てくるの、12月の会議録も同じこと。市長ね、4月に改選期を迎えて3選出馬されるわけでしょう。私、市長に聞いているんですよ、トップの市長。

部長答えるよりも、今、市長に問うたわけだから、市長、どうなんですか。これずっと相手方がお願いしますと言ったら、ずっと延々に持ってきます。でも、向こう5年ぐらいでやめます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

12月でも、そのように私はお答えさせていただきました。変わりません。排出元がこれによしというのか、また自分たちで処理ができるような状況が起きれば、もうそれで私はとまると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

先ほど3月1日現在で上水道汚泥、2社合わせて1,735トンって言われたと思うんですね。上水道汚泥だけですね、これ下水道汚泥はもっとたくさんあるわけですけども、低レベルでも全体の総量があまりに多いわけですね。ですから総量が問題だということ、2日の講演会の講師もお話されたと思うんですね。

それで新潟市と長岡市が、今、上水道汚泥を持ってきてるわけですが、これ以上、糸魚川に搬入しないでほしいということ糸魚川市として2市に、自治体に対して申し上げたことありますか。文書でなくて電話でも含めて。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先ほどから申し上げましたように、相手が処理できるまでということでありますので、私どもから、もうこれ以上汚泥を持ってくるなというようなことは、申し上げたことはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

同じ質問を副市長にいたします。副市長は2市に対して、持ってきてほしくないということをおっしゃっていませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

汚泥に関しましては、新潟市が中心となりまして、市と色々な協議をしてきたわけですので、それらに沿って話をしてるということでありますので、それ以降のことについて、私がとやかく言った覚えはございません。今後とも関係市とは、あるいは企業とはしっかり協議をする中で、進めていくものというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

新潟、長岡に対しては、もう糸魚川に持ってきてほしくないということは言っていないということなんですね。わかりました。

それで1月24日の市民厚生常任委員会で、1月9日からの上水道汚泥の搬入、2つのセメント会社の運送会社ですね、電化社は地元のカネヨ運輸、それから明星社は太平洋運送でしたかね、太平洋陸送だったか、熊谷の。2つともテレビの映像で見ると、搬入がちょっとプルコンで入れてるところと、そのまま汚泥を入れてるところ違ってたので、このカネヨ運輸に関してはトラックですね、ダンプの洗浄をどうしますかって聞いたら、調べてお答えしますっていうふうに委員会で言われましたけども、その後、どこで洗ってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

搬出元で洗っているというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

そうすると市内の運送会社の車が糸魚川で洗わないで、搬出のところで洗っているんですか、間違いありません。1月24日の委員会で聞いてるわけです。後でお答えしますと言ってるわけ、もう1カ月以上、間違いはないですか。地元で、須沢にありますけど、洗ってませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

企業に対して、そのような確認をとっておりますので、間違いはないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

わかりました。絶対間違いはないんですね。須沢で洗って、その汚れた汚泥の水が、八千川に放流されてるということはありませんね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

企業からは今言ったようなことを聞いていますので、そのようなことはないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

これは協定の中で期限もないし総量規制もないということで、非常に私は今後、これは無視できないなというふうに、いろんな方の講演会で感じ取るところです。やはりセメント会社、2社のことだからということで、企業に責任を押しつけてもいけないと思いますので、慎重に慎重にやってほしいと思います。

最後に、市のホームページから、電化社では1月9日から30トンずっと、1月24日まで続いたんですが、その後19日間、搬入なしです。それで1日だけ搬入して、また8日間、搬入がないわけですね、ホームページ。田中議員の質問では、作業工程上のことだと言いましたけども、何かトラブルがあったんじゃないですか、この期間。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

田中議員にもお答えいたしましたけども、新潟市では、直近に発生したのから処理を行うということで、それが効率的なことから、新しいものから処理をしておりましたけども、降雪等の関係で汚泥等が従来よりもやわらかくなるということで、電気化学工業のほうの作業工程上、ちょっとやわらかいのは無理だということから、機械脱水のほうに汚泥をかえていくということで、その処理工程等の調整に時間を要しておることから、若干時間があいてるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

1月9日から、ずっと脱水汚泥だったんですね。それで19日間搬入なしで、次の2月13日は脱水ではなくて乾燥汚泥になった。1日だけ入れて、また8日間ストップ、以後また脱水になったんですね。これ市の担当課としてどう捉えています。ホームページに公開しているので、これを見る方は不思議に思っている方が多いんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

鈴木議員がおっしゃるとおりのことでございます。ただ、やはりその汚泥等の状態によって運び込めるもの、それから奥にあったほうから入れかえるとかっていう作業等がございますので、その間、やはり時間を要したということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

時間がありませんので、また次と言っても、次がないかもしれないんですけども、またちょっと汚泥問題はこのくらいで、次に入ります。

3番目の福祉事務所の組織見直しも何回も取り上げてます。子どもの係を子ども支援室から、さらに教育委員会のほうに分離しました。こども課に、1つの課になればかなり予算化もできて、いろんなことを展開されてきました。それで25年4月から、また一部、教育委員会の見直しですね、組織の、これが定例会の初日で発表されておりますね。

福祉事務所は、今、高齢者も障害者も介護保険、援護係も皆一緒に、非常に私は煩雑になっているんじゃないかと。特に介護保険の改定時期、3年に1回は係でやってるから大変ですよ。私も委員会も含めていろんな視察地に行くと、もう今は介護保険課として独立してるところが多いですよ、高齢者福祉課と。当然、もうこども課は分かれているところが多いんですけど、このまんまの組織でいけばきめ細かい、高齢化率がもう33%を超えている、これで十分なのかと。私、こどもを分けていただいたことは本当に感謝してる。でも残った課で、これだけで、これ加藤福祉事務所長が答弁することがないですよ。トップなんです、トップの考え聞かせてください。

先ほど現行で十分だと言ってる。市長、きめ細かい目線で見てるんでしょうか、問題ないですか。子どもは分けたんです、高齢者が今人口の、もういずれ35%にいかんとしている中で、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1回目にお答えしたとおり私は十分だと思っておりますが、もし不安だとしたら、担当の所長からも答弁させます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

現場の所長としてどのように考えているかというところでございますが、介護保険、高齢福祉の部分では、車両の両輪だというふうに思っております。また、議員がおっしゃられるように、高齢化率が33.3%を超えているという状況で、どれだけできるのかというところでございますが、高齢者の支援につきましては、今委託しております地域包括支援センターがございます。その中で、きめ細かい高齢者の支援をさせていただいているというふうに考えております。

また、福祉事務所の中で介護保険と高齢者の施策について連携をとりながら、また、障害の方で高齢の方もいらっしゃいます。そういう部分では、同じ事務所の中で仕事ができるということは効率があると、効率的にやっけていけるというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

12月定例会で、障害者の交通費の助成についてお尋ねしました。見直すということで私も県内、糸魚川が一番低い年間1万円ですね。それで驚いたことに、これは自己申告で、自分で障害者の方が申告しないとそのままなんですよね。市が該当者に、障害者の方に、あなたはこういう交通費の補助対象になりますよ、申請してくださいって、そういうシステムではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

皆さんのところへは文書では通知はしておりません。「おしらせばん」のところで、お知らせをさせていただきます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

障害者だけでなく高齢者のおでかけパス事業もそうなんですよね。「おしらせばん」に書いてあるだけだから、それを見落としてしまったらそれで終わり。特に障害を持ってる方、わからないですよ。ホームページにも載ってるんですね、私もわかりません。障害者タクシー券、燃料券交付の概要。対象、云々ずっと書いてあって、これ皆さん仕事をする上で、お互いの仕事の中の文書を、そのままホームページに載せているんです。これじゃ該当する方はわからない。じゃあ対象者と、今支給されている人の割合、対象者を100%として、支給されるべく人で申請してる人の割合、どれくらいですか。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午前11時40分 休憩

午前11時41分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

24年度予算では、対象者につきましては1,790人いらっしゃいました。また、過去では22年度の決算で、こちらのほうに資料がありませんが、交付した方は1,035人となっております。また、障害の手帳をお持ちであって、交付を受けている方もいらっしゃいますが、障害の手帳を持っていても、高齢者の場合に通院するときの交通費助成もでございます。そちらのほうの対象になっている方は、タクシー券の該当ではございませんので、率にしますと、もう少し高くなるかというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

24年度は障害の対象者の方が1,790人、交付した数字はわからないということですね、後で教えてください。とにかくわかりにくいんです。

ホームページ、先ほど市長はリニューアルをしてよくなったと言いますが、前から見たら、合併時から見たらよくなっているんですよ。ところがトップページを開きますと、ホームページのトップページというのはとっても大事ですよ。きのう開いたら写真、ブラック焼きそばに、エビに、アンコウに、キャンドルロードに、温泉にスキー場、小さな紙面にごちゃごちゃ。これ私たち糸魚川市民はわかるけども、交流人口拡大しようという中で、市外の方が見たら何かよくわからないでしょう。鍋も、これは何鍋かわからない。でも、私は多分これアンコウじゃないかなと思ったけど、アンコウでもないかもしれませぬ。

それで例えば近隣の市町村、上越市は今現在、4月の観桜会が一面に出てきます。何か行ってみたく感じる。小谷村もそうですよね、近隣。糸魚川は何かごちゃごちゃ。ブラック焼きそばも、これ多分99%ブラック焼きそばだと思うんですけども、オムライスではないと思うんですけど、もっとわかりやすく。1面に動画で例えばスキー場が出て、何秒にまたブラック焼きそばとか、温泉とか、そういうふうにならないんですか。お金がかかりますか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

ホームページ、トップページであります。今、議員がおっしゃるような、昨日現在はそういった形で載せさせていただいております。これは折々入れかえておりますので、今回のものが確かにそういった意味で、ごちゃごちゃ載っているという印象を受けられるかもしれませんが、今回ののは「冬の味覚と大自然 糸魚川に出かけよう」というテーマで、この紙面をつくっておりますので、また今後改定する際には、なるべくわかりやすいものにするということも検討させてもらいたいと思いますし、動くものにできるかどうか、そこら辺もお金がそれほどかからないものであれば、また検討させていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

市のホームページは、やはり一番大事だと思うんですよ。本でいうと目次の前の表紙ですからね、ですからやはり私は動画にしても、それほどお金がかからないんじゃないかなと思うんですけども、よりわかりやすく、交流人口拡大というふうに挙げてるわけですから、やはりここは改善する余地があるんじゃないかなと思います。他市のたまたま上越市と小谷村を挙げましたけども、ほかにもすばらしいところがたくさんありますので検討してほしいと思います。

それから例に挙げて高齢者と障害者のページも申しあげましたけども、これではなかなかわかりにくい。「おしらせばん」に書いても該当する人が、特に障害者はわかりにくい。

ですから合併前のひところ、昔は人にやさしいまちづくりというのはどこでも言われたんですね、

旧青海町もそう。最近は交流人口拡大とかジオパークの名のもとに、人にやさしいまちづくりという活字が重点施策のどこにも見当たらない、これ残念ですよね。交流人口拡大することも大事ですけど、ここに住んでいる4万7,000人の赤ちゃんからお年寄りまで、この人たちも私は大切にやっぱりしていかなきゃいけないんじゃないかなというふうにして、同じ質問を何度も取り上げました。

最後に、5番目の0歳から18歳、教育委員会の一貫教育ですね。

今までの子育ても12月定例会も教育長は、児童福祉法がどうかこうとか言われたんですが、児童館のことも私は取り上げましたけども、放課後児童クラブがあるからいいみたいな。そうすると放課後児童クラブというのは小学校入学してからですから、じゃあ0歳から学校を上がるまでのこの子どもたち。それからお母さんが働いている人、それからお母さんが働いてない、家にいる人、この人たちの支援はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

未就学の子どもたちにつきましては、場合によっては延長保育がありましたし、0歳、1歳、2歳の保育も行っております。家庭においでの子どもたちというのは保育ができるということで、家庭にいるものというふうに承知しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

家庭にいても、前、長岡市のことを取り上げましたよね。全天候型の公園、広場、家庭にいても、もうほとんど11月から3月ぐらいは曇ったり雪降り、吹雪もあります。こういうところをどうするかというのを、長岡市がとてもいいところで進んでいるから、ぜひ視察してくださいというふうに申しあげましたけども、その後、長岡市の子育て支援、長岡市も教育委員会に入ってますが、リサーチされましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

長岡市とか上越市とか、いろいろあろうかと思うわけですが、今回はちょっとまだ把握しておりませんが、これから把握してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

12月定例会から約3カ月近くですけど、現地を見なくてもホームページ等でも十分見れるわけです。教育長は、私、エネルギーがあるんですかって言ったら、ありますって言いましたよね。教育長、エネルギーがあるうちに、もう少し進めませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

児童館の関係でいくと、保護者の要望というのがどこにあるかということ、やはり放課後児童クラブのほうに大勢集まってきております。そちらの要望が多いということです。

それから先ほど吉田課長が答えたように、自宅で保育できる子どもたちは自宅でやっていただきたい。ただ、全天候型のお話をされましたが、私自身は全天候型であっても、ある地域が特定されてしまうだろうなという疑義は少し持っているんですね。それは天気が悪い日でも、そこで遊べれば一番いいかもしれないけれども、限られた地域の子子どもたちだけがそうになってしまうのでは、あまり全市民にとっては、いいことではないのではないかなという、そういう思いも持っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

教育長ね、全天候の広場は特定されると言うけど、長岡市を見たらいいですよ、特定されないんですよ。長岡市がどこにあるかって、どの位置にある、みんなそこに集まってくる、バスに乗ったり。地域の活性化、経済効果もあるんですよ。

だから私は子どもは未来への投資、これ泉田県知事のあれなんです。未来の納税者ですよ。このところをきめ細かくやりましょう。福祉事務所の中ではやれなかったけれども、こども課に独立してやれると思う。まだまだエネルギーがあるんなら、やりましょうということ。

児童館と放課後児童クラブは違うわけでしょう。児童館は云々と言うけども、放課後児童クラブと対象が違いますよ。そここのところ、わかっていらっしゃるのかと。糸魚川市の子ども、0歳から18歳、こうしたいっていう理念、ポリシーをもっとお聞かせください。ありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

私たちの子ども一貫教育の理念ということになるのかと思うわけですが、確かな学力と

か豊かな心、健やかな体、バランスのとれた子どもを育成したい、そして自立のできる子どもにしていきたい。その中で、ふるさとを愛する心も育てていきたいということを理念にしながらしておりますし、その理念達成に向けては学校・家庭・地域、そして行政が、スクラムを組みながら対応していきたいんだということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

糸魚川市の現場の0歳から就学前の、あまり実態がわかっていなくて答弁してるんだなというふうに受けとめました。市長、市民の安心・安全ということを重点施策に挙げてますが、やはり一人一人、4万7,000の人口、赤ちゃんも1人、お年寄りも1人、この人たちが大切にされる政策の展開というのは大事だと思います。

汚泥問題も含めて、やはりこの糸魚川市に住みたくないという人たちが出てきたら、これは大変なことです。最後に汚泥問題に戻りますが、市長、これめどが付きませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

めどというのはちょっとわからないんですが、前段で質問のあった、いつやめるんだ、どんだけの量でいくんだというようなことだろうと思うわけですが、やはり前段でもお答えしたとおり搬出元が自分で処理ができる、また持ってこなくていいというような状況が起きない限りは、やはり我々もやれる範囲は、お手伝いしていかなくちゃいけないという気持ちでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

被災地の瓦れきは減っていくけど、汚泥はどんどんふえていくということで取り上げました。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、鈴木議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、昼食時限のため再開を13時といたします。

午前11時55分 休憩

午後 1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、一般質問を行います。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

13番（伊藤文博君）

新政会、伊藤文博です。

1、今日は、新幹線開通に向けた糸魚川市の準備状況、態勢について伺います。

新幹線開業が2年後に迫りました。世界ジオパーク認定と合わせて地域活性化の100年、200年に一度のチャンスであります。これまでも何度も言っていますが、この機会を活かすことができなければ転落の一途をたどるとということにもなりかねません。糸魚川市の準備状況、態勢の全般について伺います。

(1) 市職員が全員揃って同じ意識を持って取り組んでいかなければならない問題であります。

2、3年で部署を異動する職員は、糸魚川市が抱える問題に対して共通の問題意識を持っていなければなりません。担当部署だけの問題ではないし、縦割り行政の弊害を排除して縦横の連携を高めて取り組む必要があります。

部課長会議では、部署を超えた議論がなされなければなりませんし、若手同士が糸魚川市の将来を考えて口角泡を飛ばす議論の場が必要であります。どのように考え、どこまで取り組んでいるのでしょうか。

(2) ハード、ソフト両面の取り組みが求められています。ソフト面では青年会議所を中心とした取り組みが非常に活発であり、我々も夢を感じることができます。しかし、市民全体への広がりがどうかというと、歯がゆい思いをしている方が多いと思います。

糸魚川市民がその魅力をよく理解して、「もてなし」や「情報発信」に力を発揮していけるようにするために、どのような取り組みをしていますか。

(3) ハード面でいうと、新幹線駅周辺整備、新幹線駅1階部分の活用、ジオパーク関連施設など、多くのポイントがあります。

フォッサマグナパークの整備も大きな課題です。泉田知事が言っていたように、断層に自分が立つ感覚は他では味わえないものだと思いますが、フォッサマグナパークの現状では味わうことができません。人を呼べる施設としてどのように考えていますか。

(4) 新幹線駅舎1階部分の活用については、ハード、ソフト両面の問題です。ヒスイ王国館との連携を図った上で、利用者の目線での計画・運用が必要です。特別委員会でも審査されているところですが、今一つイメージがはっきりしないところがあります。今の段階では平面図とパース図が示されていますが、実際の運用面に不安を感じます。

観光協会との連携について、もうかなり具体的にないかなければならないと思いますが、どのようになっていますか。

利用者からいうと、鉄道ジオラマは一部のマニアには大変好評となるでしょう。一般の

方々にも楽しんでもらえる施設にする工夫は不可欠ですが、どのように考えていますか。
(5) 「ジオパークを心配する声が多いよ」糸魚川ジオパーク大使を務められる方の言葉です。
「人を呼ばなくては何のためのジオパークか」ということになるのですが、日常的な観光客を増やすことが課題となりますが、イベントなどの企画だけではなく、土台となるべき観光地としての基礎力を養う必要があります。どのように考えますか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、各課固有の事務のほか、議員ご指摘のような全庁にまたがる大きな課題もあることから、職員全員が共通認識を持った上で取り組みを進めていくことは重要であると捉えております。

庁内連携については、市政運営会議や定例部課長会議のほか、必要に応じて調整会議や委員会を設置し、取り組んでおります。

2点目につきましては、おもてなし講座やジオパークマスター講座などにより、おもてなしの心の醸成や情報の伝え方について、出前講座などで啓発を行っております。

3点目につきましては、23年度に断層面を従来の2倍の長さとし、観察しやすいように改修しましたが、崩れやすい地質であるため、今後も観察しやすい環境づくりを工夫してまいりたいと考えております。

4点目の1つ目につきましては、観光情報の発信スペースを計画しており、現在の観光案内所との調整を図っているところであります。

2つ目につきましては、マニアの方だけでなく、子どもに親しまれるプラレールを設置し、親子が一緒になって遊べるよう整備をしてまいります。

5点目につきましては、市民一人一人がジオパークの担い手であり、来訪者から満足していただける受け入れ体制の整備を観光関係者と連携をしながら、さらに進めていく必要があると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

多分、考え方は共通してるんだと思うんですね。具体的にどうかというところと、それから物事の捉え方のところで、やはりちょっと違う感覚があるのかなと思いますので、前向きに質問していきますので、よろしくお願い致します。

1点目ですが、総文の行革でも話が出たところでもありますけど、限られた時間内で十分に議論で

きなかったこともあり、ここでまた質問させていただきます。

系魚川市が持つ重要課題に関して職員、特に幹部職員が問題意識を共有して物事に当たっていく姿勢、意識ですね、これは全ての職員共通のものとしなければなりません。これを浸透させるのは、なかなか面倒だと思います。「言うは易し行は難し」と言いますが、そのとおりでありまして、浸透させていく、どのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、市職員全員一丸となって取り組むという姿勢が理想でございますけれども、なかなか難しいのも現実でございます。具体的な取り組みといたしましては、先ほど市長が申し上げましたように市政運営会議、あるいは部課長会議、調整会議、また日々の業務の中におきます「ほうれんそう」といわれる報告・連絡、相談、そのような取り組みの中で、市の施策の方向を一致させるべく、それぞれ役割を分担して業務を行うということに努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

この手の質問は、質問すると考え方が返ってくると。考え方が返ってきますけど、じゃあ実際に、それが実践されているかどうかというところが大きなポイントであって、こういうふうにして取り組んでいますという答えだけで、やはり物事は解決していかないんですね。

そういう観点で質問していきますので、庁内の人事異動は二、三年で部署が変わる。若手のうち、これ仕方ありませんが、課長ともなれば、どの部署に行っても即戦力とならなければならないし、また、そうならない人は課長職にはなれないんだろうと思います。そのクラスが集まる会議で、ほかの部署のことには関心を示さないというようなことがあれば、これは大きな問題であります。

1つには、自分が次には配置されるかもしれない部署の問題ということを含めて、他部署の問題に無関心であることの無責任さですね。それからもう1点は、問題の共有意識が不足しているために、また部課長会議をなぜやっているかということをも根本的に理解できていない、報告会ではない。部課長が枠を超えて議論して、庁内の知恵を結集するというべき会議であるというふうに考えますが、この辺の考え方というのは、しっかりと共有されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに今、議員ご指摘のように、口角泡を飛ばしてというところまでは私は感じていない、そういう状況にはなっておりませんが、かなりやはり問題のあるものについては経験があったり、また、

知識のある課長のほうからは、意見をいただいておりますのでありまして、その目的は今言ったように問題意識の共有、また、要するに一丸となって取り組むことの必要性があることから、取り組まさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ちょっと答えとしては不十分だと思います。

今の会議が、そこまで意識が高いもので開催されているかどうか。要するに部課長が、私が先ほど求めたような姿勢で、会議をしていることができていないのではないかと。考え方は、市長が言われるとおりですよ。さあ、実際はどうかということで、そこを見直して、再度また意識を変えて取り組んでいく必要があるんじゃないかということをおっしゃるわけですね、総文の行革の話の中でも、確かに発言には個人差があるというような答弁も受けております。その辺の考え方をしっかりしないと、やっているんですよということだけで、何も改善していかないというふうに思うんですよ。よりよくするために、どうでしょうかということです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

常に前向きな方向性は私は感じております。ただ、今言うように、もっとそれがぐいぐい引っ張っていくというところまで、議員ご指摘だろうと思っております。そのようにもっていくような方向で、これから進めていかななくてはならないと私も思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

マンネリ化というのが、1つのポイントだと思うんですよ。やっぱりどこかでそれに気がついて、打破していかなければいけない。これは市役所だけの問題じゃなくて、あらゆるところでそうだと思いますが、若手のうちは情熱があっても、次第に抵抗勢力という言い方がいいかどうか分かりませんが、それに押されてなじんでしまう。公務員の慣例に従って、自分のその部署の数年間を前任者と同様に問題なく務めることが、特に変革を求めないということになりがちであろう。

情熱のある若手が集まって、先ほどから委員会をつくったり、庁内会議でという話がありますが、そういうかた苦しい空気ではなくて、自由に議論を交わして、糸魚川市の問題に突破口を切り開いていくというような集団といいますか、それに期待をしたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりマンネリにならないようにするのが我々の努めだろうと、理事者の努めだろうとっております。そういう中で我々といたしましても、常日ごろからやはり会議のあるたびに、そういった投げかけもしますし、また、時には違った観点からの意見も言わせていただいております。特に定例という形になってくると、マンネリに陥りやすい部分があるかと思うわけでございますので、そういったところは、やはりしっかりと見詰めていかなくちゃいけないんだらうと思っております。

また、各種会議や、そういった委員会につきましては、非常に若い職員につきましては、かなり多くの意見が飛び交っておりますし、私も時々ですが参加しますと、非常に熱心にやってもらっております。そういったことを考えますと、本当に職員もようやく若い人、要するに情熱を持って市の職員に入ってくる若い人ほど、やはりそういった情熱をそういったところでは、生かし始めてきてくれるのかなというのを感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

経験は重要ですね。我々議会のことを考えても、若いだけではなかなか務まらない面もあります。ある程度の年齢で、情熱もあって分別もあり、そして世の中のことをわかっている。そして力が発揮できるというところがありますが、議会の場合は、議員個人個人の主義主張で成り立ち、主義主張が共有できるものが会派を結成している。

ところが市の職員は組織で動いていますから、組織のマンネリ化を打破する情熱が必要である。組織のマンネリ化ですね、これを打破していく情熱が必要である。若いうちから情熱を枯らさないように、組織の中で生かしていく雰囲気というのを養っていくことが大変重要だというふうに思います。考え方だけではなくて、先輩、上司が、やはり若い人たちの情熱を押さえ込まないで、それをもっと活発化させていく努力というのが必要である。それを意識として、しっかり持っていななきゃだめということになるんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

昨日、シーサイドバレースキー場で全国JRのスキー大会の開会式が行われました。270名ほど参加をされて、私もそれに出席をさせていただいて、その流れを見させていただいて、それはJR全員ではないわけでございますが、選ばれた人間で来たわけでございますが、非常に活発な流れを見させていただきまして、何か私も職員にないものを感じさせていただきました。

そういったことが、今、議員がご指摘するようなところを感じられるんだらうと思うわけでございまして、極力、我々はそういう活発な動きをするような職員を、つくっていかなくちゃいけない

んだらうというのを感じておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そこで若手の行政政策研究会みたいな、そういう任意の集まりに対して援助していくような仕組みをつくったらどうでしょうかね。大した援助じゃなくてもいいと思うんです。やっぱり奨励しながら、わずかであっても必要な備品程度のものになるんでしょうか、わかりませんが、そういう仕組みをつくっていったって活発、活性化していく。ただ言うだけでは、やっぱりだめだと思うんですよ。何か突破口となる取り組みが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに今、我々がお答えした中においては、限られた会議とか委員会形式のものを今お答えさせていただきましたが、以前、私が要望するときに内閣府に行ったときに、結構若い役人といいたし、担当官がいて、ぜひ糸魚川で若い人たちと交流してくれないかと言って集まってもらって、任意の職員とずっと長きにわたって連携といいたし、会議なり、また、交流をしてもらっております。そのように我々といいたしましては、いろんな機会を捉えて、やはり刺激というものも必要だろうと。職員だけではなくて、そういった同じ目的で、要するに市民の幸せのためにやることであればということの中で、機会をつくっていかなくてはいけないと思っております。正式、または非公式であっても、そういった機会を多くつくるのが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

職員提案は今も行っていますよね。今話したようなグループの中から政策提言が出てくる。また、市長を巻き込んだ議論に発展していくというような熱意の渦ができれば、素晴らしいと思います。やっぱりこれは初めに完全な仕組みをつくるというよりも、やりながら組み上げられていくというようなことが、大事なのではないかなというふうに思うんですよ。まず、何らかの形で取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現在でも自学支援の助成制度というようなものがあります。これは一人ずつというような形のも

のを捉えておりますけれども、これを複数でやるというような形で、伊藤議員がおっしゃられるようなグループでお互いの知恵、意見を出し合いながら、1つの政策に向かって意見交換をして何かつくり出していくと。こういう取り組みも大事だと思っておりますので、その辺、今申し上げました自学支援の延長線上に、議員がおっしゃられるようなものも検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

2番目へ移ります。今の点、よろしくをお願いします。

おもてなし、情報発信の件ですが、2月26日に国土交通省北陸信越運輸局主催の観光人材育成セミナーが上越市を会場に開催され、地元の会社がコーディネートと運営を担当していました。観光庁の事業で、北陸信越地区として、新潟、富山、石川、長野の自治体や観光関連のところに案内をしたようですが、糸魚川市の出席がなく、残念だったと運営会社の経営者がおっしゃってありました。国の観光部署と直接のコネクションが図れる絶好の機会だったのでということでありましたが、なぜ参加されなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

いろいろな行事が重なりまして、職員をちょっと派遣できないような状況だったというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そのような理由で出席できないで済むような会議だったんでしょうかね、セミナーだったんでしょうか。やはり相当重要な会議だったというふうに、私はその運営会社のほうから聞いております。いい機会だったと。物事の捉え方、優先順位の感じ方ですね、やはり何としても行っていただきたいなというふうに思うんですが、どうでしょうかね。市長、どう思われますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな催し物、そしてまたいろんな我々の部署において役に立つ立たんというのは、行ってみなきゃわからんものであるわけですが、基本的には、私はやはり出席していくべきと思うわけですが、今ほど課長がお答えしたように、少ない人数でやっとならざるわけですが、日程的に折り合わないときもあるのかもしれませんが、基本的には、なるべく多く出席するよ

うにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

出席しなかったものを、ここで根掘り葉掘り言ってもしょうがないんですけど、その姿勢というものが、やはりちょっと残念だなというふうに思います。物理的に、しょうがなかったんかもしれません。でも、これも担当課だけの問題じゃないんじゃないでしょうかね。横の連携がしっかりしてれば、ほかの課の職員に行ってもらうことだってできたと思いますよ。それが横の連携です、その観点が欠けている。

だから観光庁の事業ですよ、ジオパークに関して、どこの役所が担当するんですかっていうようなことまで質問を受けながら、いろいろ話している中で、直接メーンの担当になるであろう観光庁の事業で、また、この地域担当で、国の観光部署と直接コネクションができる機会、横の連携は必要でしょう。総務部長、どう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほどご質問のあった事例については、私もちょっとその研修は承知しておりませんでした。そういう面で横の連携、先ほど交流観光課長が申し上げましたように、交流観光課の中では、いろいろな日程の都合で行けなかったけれども、じゃあほかの職員で聞きに行けたんじゃないかという部分については、そのような対応ができたというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

産業部長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

私もその人材セミナーですね、国のほうでそういう方も来られて実施するという話は前にちょっと、詳しくは知らなかったんですけども、そういう機会があるということは承知しておりましたが、できれば私自身が出席したいという気持ちもあったんですけども、議会の準備等の日程もございまして、そのときは出席はなりませんでした。

そういった意味では、担当課がきちんと出席をするという形をとっていければ、一番よかったかなというふうに思っておりますが、議員ご指摘のような視点で、例えばジオパークに関連するほか

の、例えば産業部以外のところからも関係を募っていくというふうに思いを至らせれば、そういうこともできたかなと、今となっては少し残念だったなというふうに思っております。

そういった意味から、ご指摘のような連携の重要さというのを、改めて心にとめていかなきゃいけないなというふうに思った次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

結果論でね、これ以上掘り下げてもしょうがないので、今後またしっかりと横の連携をとりながら、重要なことについては、取り組んでいてもらいたいと思います。

おもてなしということですが、ヒスイ王国館、観光協会の事務所があって、サテライトオフィスとしての機能を果たしていると思いますが、おもてなしという感覚で見ると、いろいろ課題があると思いますが、どのように捉えておられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えします。

まず、お客様に対しては一番玄関口で対応する、例えば今ご案内のあった観光案内所、それからサテライトオフィスと、皆さん非常に頑張っていていただいております。

そういう意味では糸魚川の紹介を含めて、専門的に取り扱っている人はわかりますけども、ある意味、市民広く展開した場合に、それぞれの来訪者に対して対応できてるかという部分は、少し不安な部分もあります。そういう市民域への啓発なり、非常に事業の展開が1つの課題かなというふうに思っております。多くはジオパークマスターとか、おもてなし講座とか、それから出前講座とかという形で、広範に事業実施させていただいておりますけども、全てが最終的にうまく機能してるかと言われれば、まだまだ事業の途中かなというふうな気がしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

サテライトオフィスを駅前商店街から王国館に移すときに、いろいろ提言しましたね。1階に移ったときは、かなりオープンスペースに近いイメージでした。それが2階に移ったときに、完全に事務所の受付カウンター形式になっている。今行ってみますと、カウンターが高いですね。それで受付にいる人がちょっと下向いて仕事をしていると、顔がもう見えません。だから人が通っても挨拶をしない。東京糸魚川会との懇談会のときに指摘されました、それは。私もあそこを通ると思います。いる人を批難するんじゃないんですよ、構造的な問題であろうと。

ソフト面のこともあるかもしれませんが、そのことについて、あそこを見て問題意識を持って、すぐ直さなきゃいかんでしょう。誰かに言われるんでなくて、要するに糸魚川市の職員が見て、そ

ここに問題があるということを感じなきゃならんと思いますけど、問題意識を持ってなかったでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

特にサテライトオフィスと、今、併合しております。新たな少し経費をかけまして、上のほうに設置をし直しました。別々な活動よりも統合されて、なお情報発信力を強くしようということで、今、観光案内所と、それからジオのサテライトオフィスというふうな一体性を持たせております。最初は、確かに言われてみればカウンターは少し高いかもしれません。ただ、立地的に、どうしても階段を上がって、今活用するような方向になっておりますので、なおそのような意識があるのかなというふうに思います。

少し投資した直前だったということと、もう1つは誘導の仕方を、少し話が細かくなれば、向かって左側のほうに椅子等を配置して、少し懇談を深められるような対応の仕方に変えてあります。それがうまく機能しないのも事実かもしれません。今後ちょっと現場のほうと検討しながら、観光協会とも調整を図りたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

やっぱり問題点、もうストレートに今お客さんを受け最前線だと、一番玄関口のところにある問題点をチェックできていない、そして改善もできていないということが、いくらおもてなし、おもてなしと言ったって、お客さんの目線で物事を見る癖がついてない、これは到底無理なことですよ、ここに根本的な問題を感じる。そこがだめじゃなくて、やっぱりそうなんですよ、糸魚川市というのは、そうであるということを認識するということから始まらないと、改善できないというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えします。

おっしゃるとおり関係団体の関係者、並びに内輪の中にいると、なかなかそういう視点というのは見抜けられない部分だと思います。今後は広くお客様の意見を聞きながら、なおかつ皆さんにご指導をいただきながら、現場のほうを、できるだけおもてなしに遭遇するような形で、調整を図りたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そのフロントカウンターにおられるガイドさんたちの意見もよく聞いて、どういうふうにしたら自分たちがやりやすいかということを考えてもらいたいと思います。

イベントなどのときではなくて、日常生活の中で観光客を見て、あっ、お客さんだと思う人が、どのくらいの割合で市民の中にいるのでしょうか。正直、私も意識してないと無理ですね、そういう癖がついてない、だから意識して努力するしかないんです。それでいいんですよ、最初は、意識して努力をする、癖がついてないんですから、そして自然にそう思えるところにもっていくと。

意識しなければいけないということに気づいてもらう。ジオパークが糸魚川市にとって、地域振興にとって大変重要かつ有効なツールであって、糸魚川市全体でお客さんをお迎えしようとする意思を多くの人に持ってもらうところがスタートラインである。そこを意識してもらう、意識がないから意識してもらう、この視点はやっぱり大事だと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お話のとおりだと思います。例えば、ごみ1つ落ちていれば、ごみを拾う習慣になる。あるいは困っているお客様を見れば、ちゃんと応えてあげる、それはやっぱり接遇の1つだと思いますので、慎重に対応してまいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

さっきの1回目の質問ともリンクするんですけど、やっぱり熱意ですよ。熱意を持って仲間と口角泡を飛ばして議論する、そこから何か生まれてくる。苦しい状況のときこそ、真っ正面からその課題、問題に向き合って、苦しいけど、あえて真正面から向き合って考え抜いてこそ、そこを乗り越えていくことができるであろうと思います。難しい問題ほど、案外答えが簡単に出ないから、諦めてしっかりと考えていないものじゃないかなと思います。

現状を打開するためにも、お決まりの枠組みでないところでの取り組み、熱意ある議論が求められています。これは先ほどの1つ目のところに戻りますが、交流観光課長は担当部署として、やはりそこを何とかしたいという熱意で一生懸命取り組んでこられたと思いますね。では庁内全体でこのことに対して、また、観光協会を巻き込んで、一般市民を巻き込んでというような取り組みというのは、どう考えますか。企画のほうで答えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

職員のレベルでも当然もてなしの気持ちを持って、身近なところでは来庁される皆さんに、そう

いう気持ちを持って接する。戸惑っている人があれば、率先して声をかけるというような取り組みが必要だと思っております。そういうことに心がけております。

そういう取り組みを含めながら市民全員が、伊藤議員がおっしゃられるように外から来られた方に声をかけたり、あるいは気持ちよく糸魚川においでいただくというような気持ちを持ちながらやるのが、非常に大事だと思っております。そういう取り組みを身近なところから、先ほど交流観光課長が、ごみが散らかっていれば拾うという簡単なところから一つずつ取り組むことが、結果的には早道になるのではないかと。そういう取り組みを積み重ねていくことが、大事だというふうに思っておりますので、職員も含めて、そのような取り組みを今後とも進めていくことが大事だと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

私が言ったのは、結局、熱意を持った人間が集まって議論していく。それから実際の行動に移っていくという形をとってほしいということですね。それを違う形で答えられたということだと思んですけど、やはり一定の枠組みの人間だけではなくて、考える人間が多ければ多いほど、議論に参加する人が多ければ多いほど、大きなエネルギー、熱意となり、思わぬ発想や行動力が生まれてくるんであろうというふうに思います。

最初に言ったセミナーなどの機会を逃さずに、ヒントを追い求める、これも熱意ですよ。どこかで何かヒントあるんじゃないかということ、その機会を逃したくないという思い、これがやはり人を動かして、わざわざそこに足を運ぶことになる。どうせ行ったっていつものとおりだろう、行っても行かんでも同じだわなんて思ったら、もうこれは当然行きませんわね、無理をしては行かない。そこのところの何ていうか、姿勢というのを、やっぱり変えていかないとだめだと。そこから今度は、おもてなしの心にもつながっていく。おもてなしの対応を、最初から求めたって難しいと思いますよ。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

どうしても我々のところは有名な観光地でなかったから、やはり人と接する機会というのは少ないわけでありますので、どうしても市民同士の同じような感覚で接してしまうところが、結構多いわけでごさいます、今ほど言うように、我々ももてなすというのを最大限、基本に持ちながら接し、そして、それが自然に身についていくことが、今、議員ご指摘のようになっていくんだらうと思うわけでごさいます、スタートのときは、やはり少し根を詰めて、そういったところをやらなくちゃいけないんだらうということ、今やっておりますが、当初からのやつは1つの一定のところ、にまでいって、少し足踏み状態だらう。これからもう1つ越していかなくちゃいけない、それを何度もやらなくちゃいけないんだらうと思うわけでごさいます、今、俗に言う二の矢というのが、

まだ出てないのが、今1本が出て、ようやくそれが1つ通り過ぎていったかな。二の矢をどうやっていくのかというところで、今進めていかなくちゃいけないだろうという考え方であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ぜひ、いろんなところにある熱を生かした取り組みをしていただきたいと思います。

フォッサマグナパークですが、私は土木技術者でもありますが、初めて見たときに、ああ、土木屋の発想だと思いました、整備状況がですね。その後、改善されましたが、泉田知事の言う断層に立つという感覚には、まだちょっと遠いであろうと。断層が見られるということは、すごいことですが、はっきり見える、そして感じられるということが重要である。今のフォッサマグナパークに欠けているのは、客観的に見て何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

一体何が欠けているかというところは、今見る場所が非常に狭いということと体験、身をもって臨場感あふれるような、パノラマのような状況にはなっていないということであります。そういう意味では、先ほど市長が答弁されましたように、環境状況を工夫する必要があるというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

見るところが狭い、臨場感が不足、決定的ですよ。断層面をきれいに露出させたとき、手をかけて。これは明確に断層がわかりますが、露天で月日がたつと、だんだん不鮮明になる。期待を持って来た人は、なんだということになるんですね。お客さんの目線では、何が求められているのかというふうなことをしっかりと、あそこの施設については考えなきゃいけない。そして何ができるかということですね。費用の問題は後ですよ。金かかるからできませんって、最初からできない理由を言うのはなしにして、何が求められているか、何ができるか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

フォッサマグナパーク、ご存じのように糸魚川静岡構造線を見ることができる唯一の場所であり

ますし、ジオサイトであります。そこが大地の4つのプレートが重なり合う割れ目の唯一の場所だということを知っていただくということが、大変重要であるというふうに思っておりますので、そういう部分が欠けていると言えば、欠けているかもしれませんが、そのために昨年、平成23年度の予算から繰り越しの事業を行う中で、二、三メートルあった断層露を6メートルぐらいに広げたところであります。

ただ、断層露そのものは非常に大きな距離でありますし、見える露面というのは非常に少ないわけでありまして、ご存じのように場所が断層の破碎帯といわれる、断層露面がこすれ合って非常に細かい粒子になっておりまして粘土状ということと、非常に雨水が出やすいということでありまして、湧水されやすい場所でありまして、基本的には淡路島のようなところの断層露のように目でしっかり見える、クリアに見えるというような場所はないわけでありまして。そういう意味でイメージを持っていただいて、これが断層露の一部であるというような工夫が必要かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

目で見て断層がはっきりとわかる、その位置に立っている実感ですね、感覚、五感で感じられるということになるんでしょうけど、露出させた断層面を保全して、いつ来ても観光客がそれを見て、感じるができる施設にする、そのことがやっぱり求められているわけですよ。

じゃあ、どういう施設をつくると、どれだけ金がかかる。じゃあ財政的に可能かどうかということと、それはもう1つは、そこまでのお金をかけて、施設を整える必要があるかどうかという判断になります。それほど重要なジオサイトであるか。今の状態で工夫をしないということは、あの程度でいいと思っていることになりませんか。やはりもう1つ、2つ、工夫を重ねていく必要がある。露天でだめなら、上屋をかける。水が湧いてだめだったら、横から水を抜いてしまう。そこに水が流れてこないように、湧き出して断層面を傷めることがないようにやる、工夫はいっぱいありますよ。それと財政面の比較になってくるじゃないですか、それと重要性の問題、そこまで捉えて検討してますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

フォッサマグナパークは非常に重要なところであります。また、ご指摘した点についても以前から課題となっておる部分でございまして、3メートルから6メートルにしたのも、そういった理由からであります。

今ご指摘いただいた点についてもやってきたんですが、やはり滑り面とかいろいろ出てきておるわけですので、その辺の出し方。一番いいように、断層がよく見えるようにやるという形になっていくと、かなりの金額になったということの中から、もう少し様子を見るという形で、3メートルから6メートルにさせていただいております。以前よりは、よくなったというぐらいで

はあるんですが、やはり知事からの指摘もあったように、根本的には課題解決にはなっていないと思っております。

そういったところをまた今言われるように、いろいろな考え方があると、もうちょっとやはり幅広く、一番理想というもので捉えただけで、今断念してる部分でございますので、今言われるようにいろんな考え方を少し持っていきながら、そういった方向で目的を達せられるかどうかあわせて、検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

私も大変重要なポイントだと思うんですよ、フォッサマグナパークは。でも、あそこへ行った人は、もう1回行きたいとは思わないです、今の段階では。やっぱりそういう施設にしていかなきゃいけないんですね。

新幹線1階部分の活用の話に入りますが、北口、王国館の案内所と、南口、新幹線駅舎1階のジオパーク情報発信コーナー、運営は誰が行っていくんでしょうか、どういうふうに連携をとるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えします。

現時点では、商業ベースが北口にあるわけですから、そちらのインフォメーションも確実にやる必要があります。それから新しく南口のほうは、新幹線駅舎ができるわけですけど、そこら辺のインフォメーションもしっかりやっていかなければいけないと、直接そういうふうに思います。ただ、この2つの面をうまく調整せざるを得ない部分が、非常に今の難しさであります。だとすれば観光案内所を今の北口に少し配置をしまして、私ども糸魚川市で進めているジオパークの情報発信コーナーとして、サテライトをうまく使って南のほうで展開したいと。最終的には淘汰される場面もあるかもしれませんが、現時点では、そこをうまく関係者とあわせて調整しながら、運営をしていかなければいけないのではないかなというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今の答弁ですと王国館のほうは観光協会、駅舎1階は市が直営で行うということですか。それとも指定管理のような形の中で、観光協会に両方やってもらうのか、運営が誰になるのか。そして、もう一度それを踏まえて、連携の話をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ジオパークのサテライトオフィスの出発点からそうでありますけども、市が直接的ではあるにしろ、最終的にはジオパーク協議会とか、ジオパークガイドの会にお願いしまして、委託行為で今、実施しております。同様な形で推移したいと思いますので、観光協会並びにジオパークガイドの会と調整を保ちながら、そこら辺の運用をしっかりと図っていききたいと。どちらも間接的には、市が関係してくるのではないかなというふうには思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

もうハード面の整備もこれから進んでいきますし、そのソフト面の中身ですね、実際の運用面を詰めていかなきゃいけないもう時期にきていると。それを今の段階で答弁があったような形で、これから進めていくことになると、実際に運営が始まるぎりぎりになって、誰がやるのか決まっていって、ばたばたしてしまうということになるんじゃないかなと思うんですよね。スケジュール的には大丈夫ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

新しい年度もあります。そういう意味では、即座に3カ月ぐらいでやりなさいということぐらいのいくらか調整はできると私は思っております。ただ、駅舎のほうの完成時期もあります。ソフトだけの準備はやられても、ある一定期間、そのままいろんな打ち合わせはあるにしても、最終的に、そこに入れる時間をしっかりターゲットをとりながら、私どものほうで配慮をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

それはソフト面だけ決まってから、随分待ちますよなんていうスケジュールは当然ないです。そんな話をしてるんじゃなくて、例えば両方が同じような機能を果たすとすると、二重に経費がかかるというような問題もあります。そこでどう連携をとっていくのか。そういうことを詰めていくと、いろいろ検討するべきことはたくさんあると思うんですよ。その検討段階というのは、やはり固定された部署で、専属の人が検討していくようなことでは多分ないでしょうから、いろいろな業務をしていく中で、その兼務した人がやっていくということになると、相当なやっぱり時間がかかる。考えれば考えるほど時間がかかりますよね、そういう意味で言ってるんですね。

両方が同じような機能を果たしながら、お客さんの利便性を高めなければいけない。それぞれの役割を果たしながら補完し合っていく。コスト面の不安を解消するなら、ITの活用だって必要で

しょう。そうなってくると予算の問題も出てきます。ランニングコストをかけないで、それで運用していくというためには、初期投資も大分要るかもしれません。そういう意味の検討が早い時期から必要であるということをはっきり言ってるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

議員ご指摘のように1階通路、高架下について、なかなか市の案が出ないということは事実だと思っております。これまで何回となく話をしていますが、ようやく形が、イメージ的なものが見えてきたので、早急に詰めましょうということの段階になっておりますが、やはり今言われておりましたように、ヒスイ王国館と新幹線の下が競合したものはないし、また、連携をとらなきゃならんし、また、新たには費用がたくさんかかればいかなものかって、いろんなことは当然想定されておまして、やはりそこら辺はしっかりと踏まえた中での協議が必要だというふうに思っております。

議員が今指摘をされておることは十分認識をしておりますので、しっかり庁内で関係課、あるいは違った外部の方の意見も入れる中で早い時期にまとめて、やはりどういう問題があるのかってしっかりと煮詰めて、決めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

南北両口に案内所のようなものがある、これはいいと思うんですよ、コスト面さえクリアできれば、そのほうが利便性が高いわけですから。だけど逆に言うと、コスト面をクリアしなければ、できないということになります。だからやっぱりそれは、かなり知恵を絞らなきゃいけないだろうと思いますね。

鉄道のジオラマのほうの話ですが、これで1つの結論が出た。そこでいい施設にするために、内装などの設計に工夫を凝らす。そういうことにはなりますが、それだけでは不十分だと思いますね。

1つの結論が出たら、それに何の疑いも持たずに進めていく。計画がバイブルである。今の駅周辺整備構想なんていうのが、あれがバイブルになって、もう時代おくれのものになっていても、そのままいっちゃうわけですけど、そうではなくて、やはりよりよい施設にしていくためには、よりよい運営をするためには、果たしてそれだけでいいのかという視点が不可欠である。これもやはりそこに何か、よりもっともっとと追い求めていく熱意、発想が必要であるというふうに思うんですね。

さっきの答弁で言うと、ジオラマとプラレールと言いましたよね。これはある程度決まって、もう運営なんか決まってるような話ですよ、ほぼ。ところが情報発信コーナーのほうは、まだ曖昧模糊としている。やっぱりここでちょっと、もう一工夫していく必要あるんじゃないかなというふうに感じとるんですけど。僕はちょっと不安なんです、不安だから聞いているんで、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

今、両方の南口、北口の観光の部分、それから駅の1階のフロアの活用について、昨年来、いろいろ議論を重ねてきて、ある程度の形が出てきているという段階まではきておりますが、ご指摘のような運営といったソフト面、それから、そこに至るさまざまな課題の整理、まだ道の途中でありまして、これは時間をかけるわけにはいかないというふうに思っておりますので、できるだけ早期に、その整理をしていかなければいけないと思っております。

そういったことから運営体制、あるいは内容もソフト面であれば、さらに詰めることもできますので、時間的に余裕のあるものと、それからそうではないもの、そういったものをしっかり整理をして、かかっていかなきゃならないと思っております。いずれにしても時間がもう限られているということで、急いで整理を進めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

5番目の質問のところで、土台となるべき観光地としての基礎力を養う必要があります。これまでしてきた質問が、もうこの質問なんです。

それで私が友人から教わった話をちょっと引用してみたいと思いますが、日本サッカーの繁栄には、チェアマンの川淵三郎さんの手腕が大きかったと。この人の手腕がなかったら、今日のサッカー界の繁栄はなかったであろうということです。プロ化を検討している段階で、山のような反対勢力とぶつかった。「時期尚早」「前例がない」という言葉であります。ここでも時々聞きますよね、答弁側で、県内20市の例を調べてみます、前例主義ですね。時期尚早と言う人は、100年たっても時期尚早と言うんだそうですよ。前例がないという人は、200年たっても前例がないと言うんだそうです。これは川淵さんの言葉ですよ。

そもそも時期尚早と言う人は、やる気がないということだそうですよ。でも、私はやる気ありませんとは情けなくて言えないから、時期尚早という言葉でごまかす。前例がないと言う人は、私にはアイデアがない。でも、私にはアイデアがないとは恥ずかしくて言えないですね、だから前例がないという言葉で逃げようとする。仕事のできない人、みずからの仕事に誇りと責任を持ってない人は、次から次へとできない理由だけを探す。できませんと言うのは簡単ですよ、その理由を見つけるのも簡単です、すぐに言えます。そのできないことにチャレンジして、できるようにして見せるんだということで、川淵チェアマンは押し切って行って、プロ化を達成したそうです。

この言葉を聞いたときに、ああ、糸魚川のジオパークも、やはり何かもう一つここを踏み越えていく強烈なパワーみたいなものが必要である。じゃあそのパワーは、どこから生まれるのかなというふうに考えるんですね。そうすると、私はよく職員の意識改革は、市長が熱源となった熱伝導ですという言い方を何回もしてと思っておりますけど、ジオパークに関しては、やっぱりそこからもっともっと大きな枠組みの中で、一丸となった情熱の固まりができないと達成できない。今までの行政手法の中では、到底ジオパークを生かし切った糸魚川市の繁栄というものは、望めないんじゃないかなというふうに思います。

だから最初の質問のこの前任者のやっていたことをやるという範囲から、もう大きく踏み出していかないと、また今の交流観光課長なんかは前任者がいないような部署ですから、新たに手探りで一生懸命やってきたんだと思いますけど、やはりそこを庁内全体として取り組んでいく、相当な意識改革が必要だと思っております。これは要望ですから答弁は要りませんが、ぜひよろしく願いいたします。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、伊藤議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、再開を２時１０分といたします。

午後２時００分 休憩

午後２時１０分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、池田達夫議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。〔１６番 池田達夫君登壇〕

１６番（池田達夫君）

日本共産党市議団の池田達夫です。

発言通告書に基づき質問を行います。

１、子ども医療費助成、就学援助の拡充・拡大についてであります。

子どもの医療費助成の拡充、就学援助の拡大は、格差と貧困、不安定雇用が拡大している現状からみても、緊急の課題のひとつになっております。

また、糸魚川市の「明日を担うひとづくり」、「子どものすこやかな成長支援」という点から見ても、さらなる拡充・拡大が求められております。

(1) 子ども医療費助成の拡充。

通院は全員中学校卒業までへの拡大を。

自己負担なしへの検討を。

(2) 就学援助の拡大。

わかりやすい案内文書への改善を。

給付世帯をさらに増加させるための方策を。

市独自の支給項目拡大の検討を。

２、並行在来線の問題についてであります。

えちごトキめき鉄道株式会社の「経営基本計画（素案）」が、２月に発表され、この３月に決定

されようとしております。この「素案」は、会社の経営理念「地域に愛され 地域とともに 地域の未来を創ります」という点から、安全対策の問題や利用者・市民の声がどう反映されていくのでしょうか。

- (1) 糸魚川市の「経営基本計画（素案）」への方針は。
安全対策の問題について。
優等列車の存続について。
利用者の負担増について。
- (2) トンネル区間の安全対策について。
トンネル自体の安全点検はどうなっているか。
非常時に「斜坑」を避難路としてどう利用するのか、課題は何か。
「斜坑」の出口周辺の整備はどうするのか。
- (3) 利用者・市民の声はどう反映されるのか。
3月1日の市民説明会での市民の声は、どのような内容か。
「経営基本計画（素案）」への「意見募集」の現状と内容は。
これらの声が「素案」にどう反映されていくのか。

3、デフレ不況対策と市内の経済状況についてであります。

政府の緊急経済対策が実施されておりますが、デフレ脱却は本当に可能なのか。

また、現在のデフレ不況下での糸魚川市はどのような状況になっているのか。

- (1) 市内の経済状況をどう把握しているか。
働く人の所得の推移と実態はどうなっているか。
企業の倒産などの状況はどうなっているのか。
- (2) 政府のデフレ対策をどう考えているか。
「三本の矢」で本当にデフレ脱却は可能なのか。
「働く人の所得を増やす」、このことがデフレ脱却のカギではないのか。
- (3) 消費税増税・TPP参加の場合、地域経済に与える影響をどう考えるか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子ども医療費助成、就学援助のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願い申し上げます。

2番目の1点目の1つ目につきましては、JRの運行時以上の対策が示されており、安全運行に配慮をお願いしていきたいと考えております。

2つ目につきましては、市としても不可欠と考えており、県や会社としても運行を表明していただきたいと考えております。

3つ目につきましては、さまざまな支援策により、現在の1.3倍の運賃で安定経営ができると

の方針が示されておりますが、少しでも利用者の負担減となることが望ましいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、現在はJR西日本がトンネルの安全を確保しながら運行いたしております。加えて譲渡するまでには、トンネル区間の安全対策工事を実施することとなっております。

2つ目につきましては、斜坑は入り口に防煙扉を設置し、避難者通路として利用する予定であります。

3つ目につきましては、会社では火災も含めたさまざまなケースを想定したマニュアルを開業までに策定する予定にいたしており、その中で検討されるものと考えております。

3点目の1つ目につきましては、安全な運行、経営収支、新駅設置、優等列車の存続などについてご意見やご質問がありました。

2つ目と3つ目につきましては、今のところ会社に30件ほどの意見が届いてるとお聞きいたしております。募集途中でありますので、内容につきましては募集終了後に、集約、検討した上で発表されると考えております。

3番目の1点目の1つ目につきましては、合併後の17年度と24年度の課税給与所得を比べますと、9%の減少であります。

2つ目につきましては、24年度の市内の倒産件数は、現在までに4件報告されております。

2点につきましては、金融政策、財政政策、成長戦略が一体となって効果があらわれるものと期待するものであります。

3点目につきましては、消費税の増税に伴い駆け込み需要と、その反動による消費の落ち込みが懸念されます。TPPにつきましては、その内容によっては地域経済、とりわけ農業に影響を及ぼすことが懸念されます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、県が新年度に助成対象の拡充を行うと聞いており、県の動向を踏まえ検討してまいります。

2つ目につきましては、引き続き一部負担を保護者をお願いしてまいりたいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、新年度に向け、よりわかりやすい文書になるよう改善してまいります。

2つ目につきましては、小・中学生の保護者全員に案内文書を配布するほか、広報やインターネットでの周知や、校長会等を通じての教職員への周知も行います。

3つ目につきましては、新年度からPTA会費と生徒会費を新たに支給対象とする予定です。なお、市独自のさらなる拡充は考えておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

まず、1番の子ども医療費の助成関係についてであります。

今ほど教育長答弁のとおり、県が拡充を検討されている、その様子を踏まえて新年度からということであります。糸魚川市の通院のほうは確かに高校卒業までということで、県内単独トップであります。ですから入院ではなくて通院のほうも、子どもが3人までという枠、制限を取っ払って、全員中学校まで全ての家庭、全ての子どもが対象となる、こういう水準にぜひとも上げていただきたいと思います。

県内ではご存じのように57%の市町村が、既に、この3人の枠を取っ払っております。ちょっとおくらせていますが、一日も早くこの県内水準に到達し、さらにそれを追い抜いていく。そういった立場で、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

昨年9月の議会で、この点を指摘したときに、指摘を十分に踏まえながら前向きに検討していきたいという答弁でありましたけども、今の教育長答弁も踏まえて改めて前向きな検討の状況、さらにそのときに、私、費用はどれぐらいになるかということでは、約1,300万円の負担増になるという答弁も同時にございました。そのあたり改めて、もう一度お答えをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

今、議員がおっしゃるとおり、通院につきましては、小学校6年生までというふうになっておりますし、入院については、高校卒業までということでございます。

なお今現在、県のほうでも通院については、策を講じるというようなことを聞いておりますので、市としましても県の動向を注視しながら、子どもの健康を第一に考えてまいりたいものというふうに思っています。

なお、子どもの健康ということでございますが、インフルエンザにつきましては市の単独の費用で、13歳未満の予防接種を実施しております。そういったことも踏まえながら、バランスをとって子どもの健康を考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

次に進みます。自己負担なしへの検討、これも引き続き負担を求めていく、現状と変わらないという答弁が今ありました。私、この完全無料化への展望というのもしっかりと位置づけて、やっぱり切り開いていくべきテーマの1つではないかと思えます。

新潟県内、糸魚川も含めて同じこのような一部負担というのは30市町村、つまり全部の市町村が無料化ゼロ、無料化してません、一部負担であります、ゼロであります。ですから、ここを突破していくということは、やはり糸魚川として入院が高校までという頑張った、そういった糸魚川市ですから、ここで一踏ん張り頑張っていたいただきたいと思います。

やっぱり明日を担う人づくり、あるいは先ほども出ましたけど未来への投資、そういった考えに立って、この検討をさらに進めていく、そのような立場にぜひとも立っていただきたいと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

市としましては先ほどの教育長答弁のとおり、当面の間は、一部負担をお願いしてまいりたいというふうに考えるところであります。これは市民への、また、医療機関を利用する皆さん、または、その利用頻度等の公平性等も考えながら、非常に恐縮な面もありますけれども、受益者負担をお願いしていきたいというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

もう1つ違った角度から今度はお聞きしますけども、全国的に見ても、この子ども医療費の無料化という制度が広まってきております、普及されてきております。

以前にも紹介したと思うんですが、全国1,742の市区町村のうち一部負担金があります。つまり糸魚川市と同じものが834自治体、一部負担なしが900自治体ということで、これは完全に一部負担金なし52%という形で逆転をされております、多数を占めるようになっております。やっぱり糸魚川市としても検討を始めていただく、目に見える形での子育て支援になります。

本当に子どもは、少子化の中で地域の宝です。やっぱり親だけではなくて、おじいちゃん、おばあちゃんへの強いメッセージになります。そして子育てするなら糸魚川、そんな話がずっと大きく広まっていく、それは非常に喜ばしいことだと思います。若干の時間、あるいはお金もかかると思いますが、検討の価値は大いにあると思うんですが、改めてお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

確かに利用者からすれば、無料になることのメリットというのは、非常に大きいものというふうには考えるところであります。ではあります、公平性等々、全体のバランスを考えたときには一部負担という、受益者負担をしていただくということもまた大事な点なのかなと、そんなふうにも

考えているところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

就学援助の拡大のほうに話を移します。新年度から改善される。私、以前にお渡ししたことがあります。上越市の例、非常に評判がよくてわかりやすい。今までの糸魚川市の例ですと、非常に入り口のところで何かシャットアウトされるような、それがいわゆる申請を抑制するような、そんな形になっていた部分もあるのではないかと思います。改善していただくことには、そのとおりやっ

ていただきたいと思います。それでこの制度の目的も含め、やっぱりこの制度が、より身近なものであることを徹底することが重要だと思います。という意味で、より徹底するという意味で、私、前回もお話したと思いますが、1学期だけではなくて、2学期にも改めてこの案内用紙を配布する。また、学校の入学説明会、そのような機会を捉えて、この制度を保護者に直接説明をしていく、このような措置というのはできないものでしょうか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

案内文書のことにつきましては上越市の例、これを以前いただきまして検討しております。

確かに自分の家庭が、これの対象になるか、ならないかの入り口の部分で、やはりわかりやすく説明しております。その辺は改善をしていきたいというふうに考えておりますし、PRの方法につきましても今検討中でございます。議員がおっしゃられた1学期、あるいは2学期とか、そのほかの場面でもPRできるような形で、今進めたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

次の給付世帯をさらにふやしていくということについてお聞きします。

この給付率、全国的には2011年度で約157万人、15.6%の子どもたちが、この援助を受けている。県内の平均、同じ年度ですが18.4%、上越市では14.6%、妙高市では13.6%、これらと比較しても糸魚川市は10.1%、別な資料では9.5%という数字もあるんですが、潜在的には、この前も言いましたけど、まだまだあるのではないかと。したがって、より徹底していく、そういった立場に立っていただきたい、このように思います。

この給付率が近隣の市町村と比べて低いということについて、どのような認識をお持ちか。ある

いは、糸魚川市は経済的に困難を抱える家庭が少ないんだ、そんな数字がまた別にありましたら、紹介もいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

確かに今、3市の状況を見ますと、糸魚川市が一番低い状況でございます。この所得要件が3市とも同じでございますので、確かに糸魚川市が若干裕福なのかという場面もあるかと思いますが、先ほど申しました案内の仕方にも、若干の理由があるのかなと今考えておりますので、その辺はまた改善していきますし、ちょっと所得の部分につきましては、ほかの2市もちょっとその辺、調査してみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

支給項目の拡大ということについてです。

今ほどありましたけれども、4月からは3項目、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費等が追加される、この点はやっぱり評価したいと思います。以前にも述べましたけれども、3年目になりますが、この3項目の実施率というのは、全国的に見てわずか13%ちょっとなんですね。ですから糸魚川市としても、その13%のところ仲間入りをした、切り開いてきた、そのような言い方ができるかと思います。

そうすると、次はさらに市独自の支給項目の拡大、上乘せであります。12月議会の答弁では、少し調査します、研究させてくださいというお話でした。現状はどんなところまできているか、紹介をしていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

県内をちょっと調べてみました。12月議会でご指摘のございました独自の項目ではありますが、ほとんどやっぱり県内では、あまり実施しておりません。ただ、25年度には若干ほかの市町村でも別な項目といいますか、新たな項目を追加したいというところがございますので、またその辺の状況を見て、検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

県内はそうかもしれませんが、全国的にもっと目を開くと、例えば東京の中野区、墨田区、神奈川県茅ヶ崎市、福岡県福岡市などでは、次のような例があるんですね。卒業記念アルバム代、上限1万1,000円、卒業記念費4,200円、眼鏡、コンタクトレンズの購入費、上限2万200円、中学校1年の運動着の費用1万円、中学生の自転車通学ですかね、ヘルメットの購入費、実費。やっぱりもっともって現状を具体的につぶさに見れば、いろんな項目が考えられるし、検討していける余地というのは大いにあると思います。

どうでしょう。保護者へのアンケートみたいなので給付世帯について、どんな現状ですか、助かっていますか、あるいは項目はいかがですか、さらに上乘せをしていただきたいような項目はありませんか、そんなようなアンケートはとられていないと思うんですが、とってみる、現状をつぶさに把握する、そういった意味でアンケート調査のようなものを、給付世帯に対して行うということについてはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

そのようなアンケートは今までとったことございませんが、今後また、とるかたらんか含めまして、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

2番目の並行在来線の問題に移りたいと思います。幾つかの安全問題、優等列車の存続、利用者の負担増について答弁があったとおりであります。

私はその中で、やっぱり特急列車、特急「北越」の存続。素案の中では、存続を県、沿線市と一体となって、JR東日本等に要請、協議とあります。先ほどの答弁ですと、不確実なものなので一生懸命要望していきたいという趣旨だったと思いますが、実際どうなんでしょうか。何らかのいろんなこの間の細かい動きも含めて向こうの動き、こちらの要望活動等ありましたが、実際どこが今ネックになっているのか、どんな問題があるのか、その辺、少し紹介していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

JR協議は、基本的には県が主体となって行うということでございます。そういう中で、基本的には並行在来線になった区間には優等列車といいますか、特急列車は原則的には走らないという、そういう含みの中で、いろんな課題があるというふうに思っております。

直接、私どもが行って、JRと交渉しているわけではありませんので、それは県も会社も必要と考えておりますし、これはぜひ何とかしてもらいたいということで、JR東と協議しとるといって

ころでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

そのとおりですね。大いに地元の声も、糸魚川の市民の声も含めて、行政のこういう基本的な考え方も含めて、大いに力強く要望、交渉していただきたいと思います。

トンネル区間の安全対策ということについて、話を進めていきたいと思います。

現在のトンネル自体の安全点検、JR西が運行してるんで、2年後までには、いろんな工事をすることになるというようなお話が今ありました。具体的な点検実施、三セク会社としての、そういった予定あるんでしょうか。あるいは今、JRとの協議みたいなものは始まっているんでしょうか。まだまだこれからなるんでしょうか。

開業まであと2年であります。14ある全てのトンネルを点検する、必要な場合は補修の工事を行う。やっぱりJRは責任を持って新会社に譲渡をする、そういった責任があるかと思いますが、その辺のJRの今の点検の状況、何か情報をお持ちでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これもJRとの協議は、県が主体となって行っておるということでございますし、また、先日の新潟県知事とJR、これは西日本の社長との合意事項の中に、基本的には必要な既存鉄道施設の整備を譲渡前に実施します。それから、特に、ここ北陸本線はトンネルが多くございますので、トンネル区間の安全性向上のための対策工事を実施する。これを実施して譲渡するという、こういう共通の認識事項が発表されておりますので、これに沿って行われるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

では、具体的には、これからということですね。残り2年ですね。大変忙しくなるとは思いますが、安全第一でお願いいたします。

最近、全国的にも報道されております、トンネル内のコンクリートが崩落する事故があります。北陸本線でも2月の末に、第1外波トンネルですか、事故例もありました。そこでお聞きしますが、一般的な話でいいんですけども、鉄筋コンクリートの構造物である鉄道のトンネルの耐用年数だとか、寿命だとかというのは、大体どのように考えたらよろしいんでしょうか。

鉄道のトンネル、列車の振動もありますね。海岸に近いところは、塩害もあるかもしれません。この地域は、冬になると気温が非常に下がります。あるいは、雪によるいろんな影響もあるかもしれませんが、この地域のコンクリート構造物であるトンネルの耐用年数、あるいは寿命といったものの、どれぐらい考えたらよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

一般的に道路構造物としてのトンネルは、これは標準ですけども、50年とか70年とかというような形で言われるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

わかりました。

50年から70年ですね。そうしますと、この北陸本線の県内区間、14のトンネルがありますけども、仮に50年とした場合、50年を超えるトンネルはどのトンネル、あるいはトンネルの数としては幾つあるか、おわかりでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

1つ1つのトンネルが、いつつくられたというのは今把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

進みます。非常時に斜坑を避難路としてどういうふうにご利用するのか、今検討されようとしてます。いろんな課題があると思います。

今、市長答弁では防煙扉をセットする、それは先日の素案の説明の中にもありました。それはそれで安全対策の有効な1つの手段であるかと思えます。

3月1日の市民説明会では、鉄道の現場の方から次のような声がありましたね。例えば斜坑を避難路として使う場合、階段の手すりの取り付け。あるいは階段そのものが、いろんな土圧でゆがんでいる補修の問題、案内標識の改善の問題、あるいはジェットファンで換気をしたらどうだ、そういった提案も含めてあったと思います。これらの問題というのは新しい会社で、いろんな形での今、情報収集の中で検討が始まっていると思いますが、しっかりと伝えていただく、会社の方もおられましたけれども、そのように考えてよろしいですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先般の3月1日の説明会の中でも、この話が大変議論をされました。その会社の方針の中では、

現在、JRからやってもらうもの、会社として独自に整備するもののお話がありましたが、やはり安全第一ですので、会社からいろんな提案されたものをしっかり開業までにやっていただくように、また市としても訴えていかなきゃならないと思ってますし、今回の話をした中でのいろんな課題について、再度また内容の精査をお願いしたいということで、きょう会社のほうへ電話は入れときました。

いずれにしましても、発言された方は、ほぼJRに従事されていた方、あるいはそれらにかかわった方ですので、実態をよく知られた方の意見だというふうに捉えておりますことから、会社にはそのことを十分伝えながら、進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

北陸本線の県内区間、60キロ余りあります。トンネルが14カ所あり、そのトンネルの総延長が約34キロ、つまり56%、約6割がトンネル区間である。これはよく聞く話で、先日の説明会でも社長みずからが、そのような6割がトンネルだよということを言っておりました。トンネルだらけの、この路線の区間であるわけです。

しかも11キロを超える頸城トンネルがあります。能生駅を出てすぐトンネル、トンネルを抜けるとすぐ名立駅、これが約11キロ余り。やっぱりこういった長いトンネルの中で、列車の事故が起こる可能性がありますし、トンネルの構造物そのものがコンクリートが上から落ちてくる、そういった事故も可能性があります、現に起きております。やっぱりこういった問題、緊急の課題として提起されているのではないかと思います。こういった状態、やはり今、副市長も答弁されましたけども、どう認識され、どう会社として取り組まれようとしているのか、これについてこういう非常に大事な問題であるという認識も踏まえて、重要な問題であるという認識も踏まえて、もう一度、副市長、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

トンネルのこと、あるいはディーゼルと電車のことについては、糸魚川市の課題ということで、議会からも県のほうなりに要望されてる事項であります。当然トンネルについては、先般、事故と申しますか、そういう課題も出てきたわけでありますので、しっかりこのことは会社に伝えたり、あるいは、現在JRが運行しておる範囲の中で、しっかり整備をしたものを引き継ぐということになっておりますので、そのことはしっかりと伝える中で、やはり会社の理念でもありました安全ということを最重点に取り組むことを、話をしていかなきゃならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

3番目の避難路としての斜坑を登りました。そうすると出口があります。その出口の周辺の整備、これについてどうするのかということで、先ほど答弁もありましたけども、マニュアルを整備していく中で、そういったものの整備もしていかなきゃならないんだということ、答弁がありましたけれど、何回も言いますが、あと2年ですよね。あと2年の中で計画して、現場を見て、実際に工事をして、2年というのは、あっと言う間に過ぎるような気がいたします。これ本当に緊急の課題だと思います。

私、出口周辺には幾つかの課題があると思います。まず、幹線道路からの出口へ行くアクセスの道路の拡張ですね、非常に狭いです。それから、出口周辺の緊急車両がとまるスペース、そういったものも必要です。あるいは冬の間の除雪の問題、また、すぐ近くの集落の住民の皆さんに協力を仰がなきゃなりません、事故のときは。そのときのそういう地域住民の方との協議の問題、こういったいろんな課題があると思いますが、いかがでしょう、こんな課題のほかに、まだ何か課題と思われるものがあつたら、挙げていただきたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

斜坑の出口、あるいは周辺については、会社でも現地を見ましたし、私らも現地を確認をしております。やはりその中では、今、議員が言われますように、いろんな課題があるというふうに思っていますが、まずは一旦事故があったときに、外に出ようということ以外に出たときに、その後、じゃあどうするかということの課題は、今、るるお話をしたとおりでありますので、やはりそこら辺はどこまで、今2年間の間でできるのか、あるいは今後、長期的にやるのかというのは、会社にしっかり詰めていただくということになると思ってます。今、マニュアル等をつくっておるわけですので、そこら辺の中で、またしっかり説明をして、地域の要望として上げてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

確かに事故というのは起こってはいけないんですが、やっぱり起こるんですよね。ですから事故の際、下の線路から斜坑避難路を越えて、必死の思いで避難をして出口に来た。出口に来たけど、そこはもう陸の孤島だったみたいな話では絶対に困るわけですから、大いに協議をしていただきたいと思います。

それと私、その際に思うんですが、関係者だけの協議、マニュアルづくりではなくて、例えば防災の専門家、あるいは一般市民の目線で見っていくということでは、いわゆる災害弱者という言葉もありますけども、高齢者、あるいは子どもは難しいかもしれませんが、そういった利用者も入ったそういった検討、実際の実地の調査、そういったものが私は必要だと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

現在、使われている列車の中での1つでありますので、それをじゃあ広げてまでやるかどうかというのは、少し私は疑問だと思ってますので、会社の中でそこら辺はしっかりまとめていただいて、さらにやっぱり住民の協力を求めるということであれば、そこら辺はまたさらに住民、あるいは市のほうに、おろしていただくということになるのかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

お願いします。

その素案への意見募集について、30件ぐらいの意見が寄せられているということでした。締め切りが今週の金曜日になります。いつ、どんな格好で公表されるんでしょうか。3月末までに取りまとめるとなると、そんなに時間はないですね。だからもう8日が締め切りなら、9日でも10日でも出てくるのかなという気もしないでもないんですが、その辺の皆さんの寄せられた意見をまとめて、お答えしますと書いてありましたね。それいつごろの予定になるんでしょうか、おわかりでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今のところ締め切りが3月8日というのは、お聞きしておりますが、それを集約したり、まとめたりして、いつ発表するかという日時までは、まだ決定しておらないところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

なるべく早く決定して、皆さんにオープンにしてもらって、さらにそれを踏まえての意見というの、またあるかもしれませんね。だからそこは大いに揉んでいただいて、ほぼ完璧な形でお互いに納得できるような、そんな安全対策も含めて、いろんな収支の問題を含めて、いろんな問題を解決をしていただきたいと思います。

3月1日の説明会では会社社長は、参加者の皆さんの貴重な意見を賜り、最終的なものに本年度中、つまり3月末までに仕上げたいと言っておりますね。安全問題、収支の問題、先ほど言われた、から出てるいろんな問題、幾つかあると思います。どのように反映されていくか。時間がないわけですけど、大いにそこは私たちも注目して見ていただきたいと思いますし、公表もなるべく早くしてもらって、そこでまたいろんな意見交換ができるような、そんな形にしていきたい、このことを要望いたします。

それでは進みます。大きな3番目、デフレ不況対策と市内の経済状況ということです。

働く人の所得、平成17年と24年で9%の減少があるという答弁がありました。お聞きしますけども、国税庁の調査によれば1997年のピーク、民間労働者の年間平均賃金は467.3万円、それが14年経過した2011年には409万円となっております。実に14年間で58.3万円も減っている。1997年、ピークの87.5%になっているという数字が紹介されているんですが、ここで言う糸魚川市の17年から24年の9%の減少、ここをちょっと比較すると、どのようなことが言えるのでしょうか。年度的には、まだ少ないんですけども、12%、3%と9%と、そこはどういうふうに考えたらいいですか。どなたか、わかる方がおられたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

国税庁と若干比較年度が違いますのは、当市の合併の事情によりまして、合併後、最初に課税した17年度の課税のもととなった給与所得と、最近の24年度の課税の対象となった給与所得の比較であります。

これは所得金額でございますので、給与所得控除後の額でございますが、平成17年度には267万5,000円であったものが、平成24年度では243万5,000円ということでございますので、24万円の減少で、9%の減ということになっております。収入で比較しますと31万5,000円の減、8%の減ということでございます。

なお、一番減り方が激しかったのが、22年度から23年度にかけての7万円の所得減、それから、その翌年、22年度から23年度にかけての11万円の所得の減、いずれもリーマン・ショック等、世界の同時不況の影響かと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

なかなか難しい比較でしたけども、お聞きします。

糸魚川市内で、いわゆるワーキングプア、つまり年収が200万円に満たない人、届かない人が実数として、実態としてどれぐらいになるのか、そんな調査をされたことがありましたら、その報告をいただきたいと思っております。全国的には、このワーキングプア、1,000万人を超える、そのような報道がされておりますが、糸魚川市内の現状、データをお持ちでしたら教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今のご質問ですけども、少し数値のほうは掌握しておりませんので、よろしく願います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

デフレ脱却の方策について、市長答弁がありましたけども、いわゆる三本の矢、一体となって進めていっていただきたいということでしたかね、ちょっと私、メモが不十分ですが、2番目の働く人の所得をふやすことが、デフレ脱却の鍵ではないか、これは各方面から指摘されております、国会でも議論になっているところであります。

日銀の白川総裁も、もうじきパトタッチされるようですが、昨年11月の時点の講演で、デフレ脱却の道は賃金が上昇し、支出と所得の高循環が働くことだと、このように指摘されております。また、「週刊エコノミスト」の編集長は、安倍首相のデフレ脱却策を聞いていると、この人は国民の家計や雇用にどれだけ関心があるのだろうかと思える。インフレ期待の醸成ということが、多くの国民の期待は賃金の上昇だ、1月15日付ですかね、こういった見解があるかと思うんです。

こういった指摘もある中で、先ほどお話がありました現在政府が行っている三本の矢と比較して、どのような感想、印象をお持ちか、お聞かせいただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

デフレ対策の評価でございますけども、3本の矢が混然一体となって経済政策の効果が発揮されるものと考えますが、GDPの影響はすぐには出てこないというふうに見ております。現段階では、判断が非常に難しいのではないかなというふうに感じておるところであります。

それから働く人の所得の部分でございますけども、デフレ脱却の解決策の1つとしてあると思っております。民間部門の収益力の回復が鍵であると思えますし、また、中小企業には給料を上げたくても、上げられないというふうな状況もあるかと思えます。また、国会の中では、資本金500億円以上の企業の内部留保の問題もいろいろと話題となっておりますところでもありますけども、企業自体に、このチャンスを生かす成長戦略も求められているんじゃないかなというふうに感じておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

消費税の増税についてですけど、全国的な状況はともかく糸魚川市内での経済団体、あるいは地元商店街、あるいは市民の声、こういったものを聞く機会があったかどうかについて、お聞きしたいと思えます。そして聞く機会があった場合、その内容について反対とか賛成とか、やむを得ないんじゃないかって、そのあたりの声、把握されておりましたらお聞きしたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

消費税の増税によります地域経済への影響では、短期的には、やはり住宅の着工ですとか自動車の購入等の駆け込み需要によって、現在、不況感の厳しい小売り、サービス業では期待があるものと思われま。一方で、増税後におきましては、駆け込み需要の反動で、消費の減少が起きるものというふうに思われま。今ご質問のありましたように、市民の皆さんにどうだというふうな問いかけを、今までしたことがございませ。

1点少しご報告を申し上げますけども、糸魚川の経済団体連絡協議会におきましては、昨年1年間の企業の景況アンケートをとっていただいております。その報告の大まかなところでございますけども、景況感は一業種で改善傾向というふうなことが報告されております。全企業、項目別のDIでは、マイナス域ではありますけども、全ての項目で改善基調になっているということで、政府の景気対策への期待感のあらわれというふうに分析をされております。

また、平成25年に対しての景況の予測では、よくなるという値が増加してありまして、今後の経済対策への期待感なども感じられるところでありませけども、一方で、変わらないという値も同率で増加してありますので、先行きの判断に対しまし慎重な見方があるのだなというふうに感じております。いずれにいたしましても、経済対策の財政出動がこれからでございますので、それらを静観する必要があるのかなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

消費税ですね。消費税が10%になればサラリーマン家庭の1カ月分の給料、約31万円ちょっとが、消費税として消えると言われております。そうすれば、ますます消費は冷え込みませ。それが地域経済にも、そして今お話に出てませ企業経営にも大きな打撃を与えること、これははっきりしてらるんじゃないかと思ひませ。大增税というのは、この不況下では、あつてはならないことではないかなと思ひませ。

そこで、TPPの問題についてお聞きませ。

以前の議会で、市長はこの場でTPPについてと問われ、はかり知れない影響があり、私は反対であるという趣旨の答弁をさせませ。現在どんな意見をお持ちでしょうか、お聞きをしたいと思ひませ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

先般のオバマ大統領との会見の中で、聖域なき関税撤廃が前提でないということのみが合意されたわけでありませ、今後の成り行きによりませは、まだまだ不透明なところが多いと思ひませ。そういう意味では、先般、市長が答弁された内容と、何ら変わるものはございませ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

何ら変わらないということですから、したがってもう一度言いますと、TPP参加ということになればはかり知れない影響があり、市長としては反対であるという、こういう趣旨の答弁をされたわけですから、そのとおりであるということで私は理解させていただきます。

TPPの問題、よく言われます国の形を大きく変えてしまう問題、農林水産業だけではなくて暮らしの問題でも、経済の分野でも、やっぱり大きな影響がある、これはよく指摘されていることであるかと思えます。

最後ですけど、私は今回3つのテーマを取り上げました。

1番目は子ども医療費の助成、就学援助の拡大、拡充の問題であります。

これはやっぱり私は切実な問題になっていると思います。私たちが昨年行いました市民アンケートというのがありますが、その中の項目で子育てに望むことでは、4割近い方が教育費の父母負担軽減を挙げております、1番であります。そしてまた、子どもの医療費助成の拡充についても25%以上の方が挙げており、2番目となっております。こういった市民の声に、やはり糸魚川市として正面からきちんと応えていただく、その必要があるかと思えます。

2番目の並行在来線の問題では、とりわけトンネル区間の安全対策を早急に、具体的な形で確立していくことではないでしょうか。

先日の市民説明会で出された市民の皆さんの要望、意見、提言、こういったものに真摯に耳を傾け、素案にきちっと生かしていただきたいと思います。

新会社の経営理念に、先ほども触れましたけども、地域に愛される、地域とともに、地域の未来をつくり出すということがうたわれております。これを毎日の列車の運行に、本当に生かしていただく必要があるかと思えます。市民に大きな負担増を行う、あるいは利便性を損なう、安全第一ではなくて、安全第二、第三、こういったことは絶対に許されることではありません。もし事故が起きたような場合、想像をはるかに超える大惨事になるおそれもあります。事故というものは、誰も起こしたくはありませんが、必ず起こるものであります。そのときに、この安全というものにどう厳格に対処していくか、ここが今新しい会社に求められていると思えます。

3番目は、デフレ不況対策と市内の経済状況です。

糸魚川市では、やはり深刻な影響があらわれていること。本当のデフレ脱却の道は、やはり働く人の賃金と雇用の拡大であるんじゃないでしょうか。ましてやこのようなときに、消費税の増税やTPP参加では、糸魚川市の市民、あるいはこの糸魚川市の経済、さらに大変な影響を与えることになる、そのように思います。

政府は消費税増税とTPP参加はきっぱりとやめるべきだと思いますし、糸魚川市としても明確にこのような態度を表明し、政府に対して地方から発信をしていただきたいと思います、切実な声を届けていただきたいと思います。

このことを最後に述べて、私の一般質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

池田議員の質問が終了いたしました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。
大変ご苦労さまでございました。

午後 3 時 0 4 分 延会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+